科目名	人間関係とコニュニケーション				
担当教員	山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30コマ
授業概要、目的、授業の進め方	介護福祉士に求められる利用者との関係づくりの在り方や方法について学ぶ、そのために必要となるコニュニケーション技法をの実際について学ぶ				
学習目標（到達目標）	①人間関係の形成のための自己覚知と他者理解の必要性を学び、信頼関係形成の重要性を理解する②対人関係とコミュニケーションの意義及び概要について理解する③より良いコミュニケーションのための基本的な技法を取得する				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	介護福祉養成講座編集：新介護福祉士養成講座１人間の理解：中央法規				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	学習の進め方について	教科書
2	自我意識の形成について	教科書プリント・前回の振り返り
3	人間関係の欲求と葛藤について	教科書プリント・前回の振り返り
4	人間関係（対人関係）における主体と客体について	教科書プリント・前回の振り返り
5	人間関係（対人関係）形成の基本的プロセスについて	教科書プリント・前回の振り返り
6	援助関係の形成（利用者と援助者の関係）について	教科書プリント・前回の振り返り
7	利用者の生活とライフサイクルについて	教科書プリント・前回の振り返り
8	人間関係におけるストレスとコーピングについて	教科書プリント・前回の振り返り
9	援助対象者としての利用者の捉え方について（福祉的視点から）	教科書プリント・前回の振り返り
10	成人期以降の発達と人間関係について（1）青年期、壮年期、高齢期	教科書プリント・前回の振り返り
11	成人期以降の発達と人間関係について（2）家族関係	教科書プリント・前回の振り返り
12	エコロジカルな視点からみた人間関係について《ジェノグラム、エコマップの作成）	教科書プリント・前回の振り返り
13	集団力学からみた人間関係について（ソシオグラムの作成と交流分析）	教科書プリント・前回の振り返り
14	援助者への支援と対人関係について《職場の人間関係）	教科書プリント・前回の振り返り
15	コミュニケーションとは何か（言語的・非言語的コミュニケーション）	教科書プリント・前回の振り返り
16	コミュニケーションの目的と方法（1）自己覚知と他者理解	教科書プリント・前回の振り返り
17	コミュニケーションの目的と方法（2）ラポールの形成	教科書プリント・前回の振り返り
18	コミュニケーションの目的と方法（3）自己決定の尊重	教科書プリント・前回の振り返り
19	コミュニケーションの目的と方法（4）傾聴、対人距離、姿勢、位置、視線など	教科書プリント・前回の振り返り
20	コミュニケーションの目的と方法（5）利用者に応じたコミュニケーションの方法	教科書プリント・前回の振り返り
21	コミュニケーションを促す環境について	教科書プリント・前回の振り返り
22	コミュニケーション技法の実際（1）受容、共感、傾聴	教科書プリント・前回の振り返り
23	コミュニケーション技法の実際（2）カウンセリング技法	教科書プリント・前回の振り返り
24	コミュニケーション技法の実際（3）生活場面面接①	教科書プリント・前回の振り返り
25	コミュニケーション技法の実際（4）生活場面面接②	教科書プリント・前回の振り返り
26	コミュニケーション技法の実際（5）動作法、手話	教科書プリント・前回の振り返り
27	コミュニケーション技法の実際（6）アサーション	教科書プリント・前回の振り返り
28	介護現場におけるコミュニケーション技法について	教科書プリント・前回の振り返り
29	介護現場における記録と情報の共有について	教科書プリント・前回の振り返り
30	試験	試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題・提出物　30%、出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ（介護実践におけるチームマネジメント）				
担当教員	山田　沙耶香	実務授業の有無	○		
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30コマ
授業概要、目的、授業の進め方	介護福祉士に求められる介護実践に必要となるチームマネジメントへの取り組みと考え方、およびチームマネジメントを理解するための基礎的な知識を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	①介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理について理解する。 ②人材の育成課活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ。フォロワーシップについて理解する。 ③チーム運営の基本を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	介護福祉養成講座編集：新介護福祉士養成講座１人間の理解：中央法規　プリント・配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	学習の進め方や評価方法などについて	教科書　　プリント・配布資料
2	ヒューマンサービスとしての介護サービス（1）	教科書Ｐ178～186　　プリント・配布資料
3	ヒューマンサービスとしての介護サービス（2）	教科書Ｐ178～186　　プリント・配布資料
4	介護現場で求められるチームマネジメント	教科書Ｐ187～192　　プリント・配布資料
5	マネジメントとチームマネジメント	教科書Ｐ187～192　　プリント・配布資料
6	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	教科書Ｐ192～196　　プリント・配布資料
7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	教科書Ｐ196～198　　プリント・配布資料
8	組織の目標達成のためのチームマネジメント	教科書Ｐ199～201　　プリント・配布資料
9	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	教科書Ｐ203～206　　プリント・配布資料
10	チームでケアを展開するためのマネジメント	教科書Ｐ206～212　　プリント・配布資料
11	チームの力を最大化するためのマネジメント	教科書Ｐ212～219　　プリント・配布資料
12	リーダーシップとフォロワーシップ（1）	教科書Ｐ213～219　　プリント・配布資料
13	リーダーシップとフォロワーシップ（2）	教科書Ｐ213～219　　プリント・配布資料
14	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	教科書Ｐ220～227　　プリント・配布資料
15	介護福祉職としてのキャリアデザイン	教科書Ｐ227～232　　プリント・配布資料
16	キャリア開発を支える「生涯研修制度」	教科書Ｐ230～232　　プリント・配布資料
17	介護福祉職のキャリア支援・開発	教科書Ｐ232～242　　プリント・配布資料
18	OJTとＯｆｆ-JT	教科書Ｐ232～237　　プリント・配布資料
19	自己研鑽を支える体制（スーパービジョン）	教科書Ｐ237～241　　プリント・配布資料
20	SDS(自己啓発援助制度)	教科書Ｐ241～242　　プリント・配布資料
21	自己研鑽に必要な姿勢	教科書Ｐ242～250　　プリント・配布資料
22	介護サービスを支える組織の構造	教科書Ｐ251～259　　プリント・配布資料
23	組織の理解	教科書Ｐ252～256　　プリント・配布資料
24	事業計画	教科書Ｐ256～259　　プリント・配布資料
25	介護サービスを支える組織の機能と役割（1）	教科書Ｐ260～265　　プリント・配布資料
26	介護サービスを支える組織の機能と役割（2）	教科書Ｐ260～265　　プリント・配布資料
27	介護サービスを支える組織の管理（1）	教科書Ｐ265～274　　プリント・配布資料
28	介護サービスを支える組織の管理（2）	教科書Ｐ265～274　　プリント・配布資料
29	まとめ	教科書　　プリント・配布資料
30	試験	試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題・提出物　30%、出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	人間の尊厳と自立について				
担当教員	野川　みどり		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	介護の前提として、先ず「人間」とは何か、その存在の意味を考える。そのうえで、人間の尊厳および人権尊重について考える、また、介護専門職にとっての自立支援のあり方にっついて学ぶ				
学習目標（到達目標）	①人権思想の歴史的展観や福祉理念の変遷とともに、人間の尊厳や人権・権利擁護について学ぶ ②自立の考え方について学ぶとともに、尊厳を守る介護と自立支援の関係性を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	介護福祉士養成講座編集：新介護福祉士養成講座１　人間の理解：中央法規				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	学習の進め方について	教科書
2	人間の尊厳と利用者主体①	教科書・プリント
3	人間の尊厳と利用者主体②	教科書・プリント
4	人間の尊厳と利用者主体③	教科書・プリント
5	人権思想の潮流とその具現化①	教科書・プリント
6	人権思想の潮流とその具現化②	教科書・プリント
7	人権思想の潮流とその具現化③	教科書・プリント
8	人権や尊厳に関する日本の諸規定①	教科書・プリント
9	人権や尊厳に関する日本の諸規定②	教科書・プリント
10	人権や尊厳に関する日本の諸規定③	教科書・プリント
11	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷～人は人をどう援助しようとしてきたか～①	教科書・プリント
12	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷～人は人をどう援助しようとしてきたか～②	教科書・プリント
13	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷～人は人をどう援助しようとしてきたか～③	教科書・プリント
14	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷～戦後の新たな福祉の在り方への模索①	教科書・プリント
15	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷～戦後の新たな福祉の在り方への模索②	教科書・プリント
16	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷～戦後の新たな福祉の在り方への模索③	教科書・プリント
17	人間尊厳と権利擁護①	教科書・プリント
18	人間尊厳と権利擁護②	教科書・プリント
19	人間尊厳と権利擁護③	教科書・プリント
20	自立の概念の多様性①	教科書・プリント
21	自立の概念の多様性②	教科書・プリント
22	自立の概念の多様性③	教科書・プリント
23	自立とは①	教科書・プリント
24	自立とは②	教科書・プリント
25	自立とは③	教科書・プリント
26	介護を必要とする人々の自立と自立支援①	教科書・プリント
27	介護を必要とする人々の自立と自立支援②	教科書・プリント
28	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援関係①	教科書・プリント
29	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援関係②	教科書・プリント
30	試験	試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題・提出物　30%、出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として25年医療現場・介護現場で関わってきた

科目名	情報化社会				
担当教員	浅野絵里		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	60
授業概要、目的、授業の進め方	社会一般におけるＩＴスキルの修得をねらいとし、基本的な情報活用を目的として、情報リテラシーとしてのワープロ、表計算、インターネットの活用能力を身につける。ＰＣを使って、Ｗｏｒｄ、Ｅｘｃｅｌの基本的な技術の修得、ネットワークの使い方を講義する。				
学習目標（到達目標）	サーテファイ、Ｗｏｒｄ・Ｅｘｃｅｌ3級の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウイネット　クイックマスターＷｏｒｄ　3級・ウイネット　クイックマスターＥｘｃｅｌ　3級				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	Windowsの基本操作①	説明・演習
2	Windowsの基本操作②	説明・演習
3	Wordの基本操作	説明・演習
4	Wordの文章入力①	説明・演習
5	Wordの文章入力②	説明・演習
6	Wordの文章入力③	説明・演習
7	Wordの文章入力④	説明・演習
8	Wordのファイル操作	説明・演習
9	Wordの文章編集①	説明・演習
10	Wordの文章編集②	説明・演習
11	Wordの文章編集③	説明・演習
12	Wordの文章編集④	説明・演習
13	Wordの文章編集⑤	説明・演習
14	Wordの出力一般の操作	説明・演習
15	Wordの活用①	説明・演習
16	Wordの活用②	説明・演習
17	Wordの活用③	説明・演習
18	Wordの活用④	説明・演習
19	Wordの活用⑤	説明・演習
20	Word検定対策①	説明・演習
21	Word検定対策②	説明・演習
22	Word検定対策③	説明・演習
23	Word検定対策④	説明・演習
24	Word検定対策⑤	説明・演習
25	Word検定対策⑥	説明・演習
26	Word検定対策⑦	説明・演習
27	Wordの総合まとめ	説明・演習
28	インターネットについて	説明・演習
29	メールについて	説明・演習
30	ネットワークのセキュリティとマナー	説明・演習
31	Excelの基本操作①	説明・演習
32	Excelの基本操作②	説明・演習
33	Excelデータの入力	説明・演習
34	Excelセルの入力書式	説明・演習
35	Excelデータの編集①	説明・演習
36	Excelデータの編集②	説明・演習
37	Excelデータの編集③	説明・演習
38	Excel表の作成①	説明・演習
39	Excel表の作成②	説明・演習
40	Excel表の作成③	説明・演習
41	Excelグラフの作成①	説明・演習
42	Excelグラフの作成②	説明・演習
43	Excel関数の基礎①	説明・演習
44	Excel関数の基礎②	説明・演習
45	Excel関数の基礎③	説明・演習
46	Excel表の基本的な操作①	説明・演習
47	Excel表の基本的な操作②	説明・演習
48	Excel検定対策①	説明・演習
49	Excel検定対策②	説明・演習
50	Excel検定対策③	説明・演習
51	Excel検定対策④	説明・演習
52	Excel検定対策⑤	説明・演習
53	Excel検定対策⑥	説明・演習
54	Excel検定対策⑦	説明・演習
55	Excel総合的なまとめ	説明・演習
56	Excelとワードの連携①	説明・演習
57	Excelとワードの連携②	説明・演習
58	現代社会と情報リテラシーの関連	説明・演習
59	ネットワーク社会における介護のかかわり	説明・演習
60	講義の総合まとめ	説明・演習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
検定結果90%出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	検定合格米刑して自らが学ぶ姿勢で学習をしていきましょう

実務経験教員の経歴	

科目名	社会と制度の理解				
担当教員	山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	60
授業概要、目的、授業の進め方	介護業務に携わるうえで、わが国の社会状況や生活の現状について学ぶとともに、社会保障制度の全体像と個別制度としての「介護保険制度」や「障害者自立支援制度」の概要について学ぶ。さらに、関連する制度として、個人の権利を守る制度や仕組み、保健医療に関する諸政策の概要について学ぶ。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標（到達目標）	①わが国の家庭・家族・地域・コニュニティ・社会・組織・生活様式・社会構造等を学び、生活の概念を理解する ②介護保険制度の概要について理解する ③障害者自立支援制度の概要について理解する ④介護実践に関する個人の権利を守る諸制度や保険・医療制度を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	介護福祉士養成講座編集：新介護福祉士養成講座２：社会と制度の理解：中央法規				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	はじめに－学習の進め方	教科書
2	生活の構造：家庭生活の基本的機能、ワークライフバランスについて	教科書・プリント
3	家族とは（１）家族の概念、定義、構造、形態	教科書・プリント
4	家族とは（２）家族の機能と役割、家族の変容と家族観の変化	教科書・プリント
5	地域社会（１）地域・コミュニティの概念	教科書・プリント
6	地域社会（２）都市化問題と過疎化問題	教科書・プリント
7	地域社会（３）地域社会における集団・組織	教科書・プリント
8	地域社会（４）現代社会とコミュニティ	教科書・プリント
9	社会と組織（１）集団および社会と組織	教科書・プリント
10	社会と組織（２）社会や組織の役割と機能	教科書・プリント
11	社会と組織（３）特定非営利民間団体（NPO）・非営利民間組織（NGO)など	教科書・プリント
12	ライフスタイルの変化（１）雇用・労働環境の変化、女性の雇用進出	教科書・プリント
13	ライフスタイルの変化（２）少子化と高齢化の進行、余暇活動、地域活動	教科書・プリント
14	社会構造の変容（１）産業化と都市化、地域社会の変化	教科書・プリント
15	社会構造の変容（２）格差社会と社会的排除	教科書・プリント
16	生活支援と福祉（１）福祉の考え方とその変遷	教科書・プリント
17	生活支援と福祉（２）社会保障制度の概要	教科書・プリント
18	生活支援と福祉（３）社会保障制度をとりまく問題	教科書・プリント
19	生活支援と福祉（４）福祉サービスの理念、社会福祉法制度と実施体制	教科書・プリント
20	生活支援と福祉（５）自助、共助、公助と福祉サービスの供給主体、福祉多元化	教科書・プリント
21	生活支援と福祉（６）地域における生活支援、地域福祉の実践主体	教科書・プリント
22	社会保障の基本的概念（１）社会保障の役割と理念、社会保障の目的と機能	教科書・プリント
23	社会保障の基本的概念（２）社会保障の対象と範囲、社会保障の国際比較	教科書・プリント
24	社会保障制度の発達（１）社会保障制度の基盤整備（憲法・社会保障制度審議会勧告）	教科書・プリント
25	社会保障制度の発達（２）国民皆保険・皆年金、社会福祉六法の確立	教科書・プリント
26	社会保障制度の発達（３）社会保障制度の見直し、高齢化と介護保険制度	教科書・プリント
27	社会保障制度の発達（４）地方分権と社会保障制度改革	教科書・プリント
28	社会保障制度の発達（５）社会福祉基礎構造改革	教科書・プリント
29	現代社会における社会保障制度（１）人口動態の変化と少子高齢化	教科書・プリント
30	試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題・提出物　30%、出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	介護の基本Ⅰ（1）				
担当教員	山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	新しい介護の考え方である「尊厳の保持」「自立支援」を理解し「介護を必要とする人」を、生活の視点から捉えられる知識・技術を習得する。生活とは何かを、自らの課題として考察する。どの様な状態、場所においても守られるべき、人間の権利としての福祉、介護への支点をもてるように学習をすすめる。				
学習目標（到達目標）	①介護を必要とする人が、どのような状態、場所で生活していても介護の基本は人間の「尊厳を支える介護」「自立（律）に向けた介護」であることを理解する ②介護を必要とする人を、人間の特徴や生活や環境から理解する ③介護サービスの概要、サービス提供の場の特徴などを理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	介護福祉士養成講座編集：最新介護福祉士養成講座：介護の基本Ⅰ：中央法規				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	オリエンテーション・介護の基本Ⅰを学ぶ意義	講義・教科書
3・4	人間と生活の理解	講義・教科書
5・6	介護福祉の概念	講義・教科書
7・8	介護福祉士の基本原則	講義・教科書
9・10	自立に向けた介護（ＩＣＦ）の理解	講義・教科書
11・12	自立に向けた安全・安楽な介護	講義・教科書
13・14	介護の歴史	講義・教科書
15・16	介護の提供の場	講義・教科書
17・18	介護援助関係の基本	講義・教科書
19・20	利用者の特徴と援助者の役割	講義・教科書
21・22	介護と観察法	講義・教科書
23・24	記録と情報の共有化	講義・教科書
25～28	介護予防について	講義・教科書
29	まとめ	まとめ
30	試験	試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	介護の基本Ⅰ（2）				
担当教員	山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	新しい介護の考え方である「尊厳の保持」「自立支援」を理解し「介護を必要とする人」を、生活の視点から捉えられる知識・技術を習得する。生活とは何かを、自らの課題として考察する。どの様な状態、場所においても守られるべき、人間の権利としての福祉、介護への支点をもてるように学習をすすめる。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標（到達目標）	①介護を必要とする人が、どのような状態、場所で生活していても介護の基本は人間の「尊厳を支える介護」「自立（律）に向けた介護」であることを理解する ②介護を必要とする人を、人間の特徴や生活や環境から理解する ③介護サービスの概要、サービス提供の場の特徴などを理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	介護福祉士養成講座編集：新介護福祉士養成講座：介護の基本Ⅰ：中央法規				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1～4	介護援助の方法	講義
5・6	緊急時の対応	講義・前回の振り返り
7・8	終末期の介護	講義・前回の振り返り
9・10	介護福祉サービスのしくみ（障害者）	講義・前回の振り返り
11・12	介護福祉サービスのしくみ（高齢者）	講義・前回の振り返り
13・14	介護における安全の確保（施設）	講義・前回の振り返り
15・16	介護における安全の確保（住宅）	講義・前回の振り返り
17・18	感染予防対策	講義・前回の振り返り
19～22	介護従事者の健康と安全	講義・前回の振り返り
23・24	人間の尊厳を支える介護（障害者）	講義・前回の振り返り
25・26	人間の尊厳を支える介護（高齢者）	講義・前回の振り返り
27・28	介護従事者の倫理	講義・前回の振り返り
29	まとめ	まとめ
30	試験	試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	介護の基本Ⅱ（1）				
担当教員	山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	60
授業概要、目的、授業の進め方	・介護福祉士を取り巻く社会状況から、介護福祉士の社会的役割を理解する。 さらに介護専門職としての知識・技術の習得や資格取得への目標が持てる。 ・多様、複雑、高度な介護課題に対応できる専門職としての社会的役割をグループ討議や働く介護福祉士の姿を通し学び、その役割を理解する。				
学習目標（到達目標）	1．介護福祉士を取り巻く社会的状況を理解する 2．介護福祉士の役割と機能を支える仕組みを理解する 3．介護従事者の倫理が考察できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新　介護福祉士養成講座『介護の基本Ⅱ』 中央法規出版 配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	オリエンテーション 介護の基本Ⅱを学ぶ	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
3・4	介護福祉士を取り巻く状況	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
5・6	介護問題の背景	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
7・8	介護福祉士の歴史	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
9～12	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
13・14	介護を必要とする人の理解（障害者）	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
15・16	介護を必要とする人の理解（高齢者）	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
17・18	介護実践における連携について（多職種連携の意義と目的）	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
19・20	保健医療職種の機能と役割・連携	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
21・22	地域連携の意義と目的	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
23・24	連携における介護福祉士の役割	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
25・26	地域の社会資源について	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
27・28	社会資源の活用における介護福祉士の役割	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
29	前期まとめ	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
30	前期試験	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
31・32	包括的日常生活支援とは	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
33・34	身体的生活支援	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
35・36	文化的生活支援	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
37・38	社会的生活支援	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
39・40	生活環境の整備	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
41・42	緊急時の支援	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
43・44	終末期の支援	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
45・46	医療処置を必要とする人への介護のあり方	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
47・48	介護福祉士の活動の場（在宅）	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
49・50	通所施設	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
51・52	グループホーム	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
53・54	介護老人福祉施設・介護老人保健施設	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
55・56	障害者・児童福祉施設	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
57・58	介護療養型医療施設	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
59	まとめ	テキスト、配布資料使用
60	試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	コニュニケーション技術Ⅰ				
担当教員	山田　沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	介護を必要とする者の理解や援助関係・援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や家族あるいは多職種協働におけるコミュケーション能力を身につける。コミュニケーションに関する基本的な考え方を理解すると共に、接し方や信頼関係について学びます。またチームにおけるコミュニケーション能力を身につけます				
学習目標 （到達目標）	①対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技術を学ぶ ②介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新　介護福祉士養成講座５　コミュニケーション技術（中央法規） ＤＶＤで学ぶ介護職のコミュケーション技術（中央法規）				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	介護におけるコミュニケーションの基本（意義・目的）	講義
3・4	介護におけるコミュニケーションの対象 コミュニケーションの果たす役割 介護福祉職の職務とコミュニケーション 介護福祉職のコミュニケーション支援の対象	講義・振り返り
5・6	コミュニケーション態度に関する基本技術 傾聴・受容・共感・コミュニケーションにおける距離 話を聞く態度（演習）	講義・振り返り・演習
7・8	言語コミュニケーション 言語以外を使ったコミュニケーション 感情をあらわす言葉	講義・振り返り・演習
9・10	目的別のコミュニケーション技術 動機づけ・ものの見方に変化を生みだす技術 リフレーミングのトレーニング	講義・振り返り・演習
11・12	集団におけるコミュニケーション技術 集団でコミュニケーションをはかる意義 集団とは・集団の種類 集団運営の留意点	講義・振り返り・演習
13・14	グループで思い出話をする体験	講義・振り返り
15・16	対象者の特性に応じたコミュニケーション コミュニケーション障害への対応の基本 コニュニケーション障害とは コミュニケーション障害の原因 アセスメント・コミュニケーション支援の基本	講義・振り返り・演習
17・18	視覚障害のある人への支援 聴覚障害のある人への支援	講義・振り返り
19・20	失語症の人への支援 認知症の人への支援	講義・振り返り・演習
21・22	うつ病・抑うつ上程の人への支援 統合失調症の人への支援	講義・演習・振り返り
23・24	知的障害のある人への支援 発達障害のある人への支援	講義・演習・振り返り
25・26	高次脳障害のある人への支援 重症心身障害のある人への支援	講義・演習・振り返り
27・28	構音障害のある人への支援 私のコミュニケーションスタイル	講義・振り返り・演習
29	まとめ	まとめ
30	試験	試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ				
担当教員	山田　沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	私たちの暮らしの中で、人と人との関わりに重要な役割を果たすコニュニケーションについて利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション能力を習得する。聴覚障害者、視覚障害者、言語障害、失語症、知的障害者、精神障害者の基本的な知識を習得し、利用者の状況や状態に応じ、どのようなコミュニケーションをとれるのかを学ぶ、また、介護における記録・連絡についての意義・目的を一緒に学ぶ				
学習目標（到達目標）	①対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技術を学ぶ ②介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	介護福祉士養成講座編集：新介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」：中央法規				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2・3	家族とのコミュケーション 家族との関係づくり 家族と協力関係の構築	講義
4・5	家族とのコミュケーション 家族との関係づくり 家族の介護に対する意向の確認 家族の意向表出の支援	講義・振り返り
6・7	家族への助言・指導・調整 家族を支援する支援 利用者との家族の調整	講義・演習
8・9	家族関係と介護ストレスへの対応 家族関係のとらえ方 家族の介護ストレスへの対応	講義・振り返り
10・11	介護におけるチームのコミュニケーション チームコミュニケーションとは チームコミュニケーションの意義・目的 介護福祉職と多職種協同チームのコミュニケーション 介護の実践場面におけるチームのコミュニケーション技術	講義・演習
12・13	報告・連絡・相談の技術 報告・報告・連絡・相談の技術 報告・連絡・相談を促進する環境づくり	講義・演習・：振り返り
14・15	記録の技術 記録の意義・目的・種類・ 記録の方法と書き方 記録の実際	講義・振り返り
16・17	介護記録の書き方 介護記録からわかること	講義・演習・振り返り
18・19	会議・議事進行・説明の技術 介護とは 会議の議事進行 チームにおける説明の技術	講義・演習・振り返り
20	プレゼンテーションと会議によるディスカッション体験	演習・振り返り
21・22	事例検討に関する技術 事例検討を行う意義・目的 事例検討におけるコミュニケーションの基本姿勢	講義・振り返り
23・24	事例検討の実践的展開 事例検討の時に必要となる問題解決の手法	講義・演習・振り返り
25・26	事例検討での注意点 事例検討と支援方法ー解決策の実践は協働が鍵	講義・演習・振り返り
27・28	情報の活用と管理のための技術 情報の活用と管理 個人情報の保護と活用	講義
29	事例検討を行うにあたって必要な思考過程と情報獲得の必要性	演習・振り返り
30	試験	試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	生活支援技術Ⅰ（1）				
担当教員	矢尾板　美佳	実務授業の有無		○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	・介護福祉士が行う生活支援の意義と目的、ICFの視点、利用者の生活を多角的に支えるためのチームアプローチのあり方などを理解する。 ・　生活支援における福祉用具に重要性、適切な福祉用具を選ぶための視点を理解する。				
学習目標（到達目標）	・ICFの視点を生活支援に生かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援ができる知識と技能を習得する。 ・介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識と技能を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト『生活支援技術Ⅱ』（中央法規出版） 配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス 生活支援の理解	テキスト使用。プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
2	生活支援の基本的な考え方	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
3	ライフサイクルと生活の豊かさ	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
4	生活セインのポイント	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
5	ICFの視点にもとづく生活支援（1）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
6	ICFの視点にもとづく生活支援（2）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
7	本人（利用者）を理解するためのICFの視点（1）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
8	本人（利用者）を理解するためのICFの視点（2）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
9	本人（利用者）を理解するためのICFの視点（3）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
10	生活支援とは	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
11	生活支援におけるチームアプローチの重要性	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
12	ライフステージとチームアプローチのあり方	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
13	福祉用具の重要性（福祉用具とは）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
14	公的制度における福祉用具の給付の変遷	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
15	福祉用具を使用する意義	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
16	介護ロボットの開発・活用に見るこれからの福祉用具の可能性	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
17	福祉用具の種類と分類	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
18	公的制度における福祉用具サービス（1）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
19	公的制度における福祉用具サービス（2）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
20	解決手段は福祉用具だけではない	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
21	福祉用具に関するリスクとリスクマネジメント（1）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
22	福祉用具に関するリスクとリスクマネジメント（2）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
23	福祉用具提供のためのプロセス	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
24	福祉用具を選ぶためのアセスメントの視点（1）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
25	福祉用具を選ぶためのアセスメントの視点（2）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
26	福祉用具を選ぶためのアセスメントの視点（3）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
27	福祉用具の適合・モニタリングの視点（1）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
28	福祉用具の適合・モニタリングの視点（2）	テキスト、プリント配布。 個人またはグループにて演習課題を行う。
29	まとめ	期末試験。授業評価。
30	試験	現場で活用できるレクリエーションについてまとめ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験60%、課題・提出物　30%、出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	生活支援技術Ⅰ（2）				
担当教員	矢尾板美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	高齢者の様態急変や災害時等において、迅速かつ適正なケアを提供するために、必要な知識、技術を習得する。高齢者が様態急変時に「まず何をすればよいのか」「してはいけないことは何か」適切な行動がとれるように、生活支援における知識、技術を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	①様態急変時の適切な対応と行動がとれるよう知識、技術を習得する ②災害時の介護システムを理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	高齢者介護　急変時対応マニュアル（講談社）・介護災害を防ぐ生活支援システム（筒井書房）				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	授業の進め方説明
2	自立に向けた居住環境の整備	講義・演習
3～6	微妙な変化に気づくための観察ポイント	講義・演習
7～10	高齢者に多くみられる症状と対策	講義・演習
11～12	認知症の高齢者の微妙な変化にきづくための視点	講義・演習
13～14	他職種との協働	講義・演習
15～16	救急車のよび方	講義・演習
17～22	普通救命講習	講義・演習
23～24	地域の災害ネットワークを知る	講義・演習
25～29	災害に学ぶ	講義・演習
30	まとめ	まとめ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験60％、課題・提出物　30％、出席率・学習意欲10％ 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	生活支援技術Ⅰ（3）				
担当教員	山本ヒサ		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	20
授業概要、目的、授業の進め方	・衣・食・住に関する技能を実習を通して習得し、介護を必要とする人がどのような状態であっても、その人らしく生きるための環境づくりを養う。 ・食事、衣服に関する技能を講義、グループワーク、実習を通して具体的な生活支援方法を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	1. 生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	自立に向けた家事の介護 自立した家事とは	授業の進め方・教科書・プリント
3・4	自立に向けた家事の介護 調理の介護・買い物・家庭経営、家計の管理	テキスト『生活支援技術Ⅰ』配布プリント使用
5・6	家事支援の基本となる知識と技術（調理実習）	実際に調理を行い、知識を深め、技術を習得する
7・8	家事支援の基本となる知識と技術（調理実習）	実際に調理を行い、知識を深め、技術を習得する
9・10	家事支援の基本となる知識と技術（調理実習）	実際に調理を行い、知識を深め、技術を習得する
11・12	家事支援の基本となる知識と技術（調理実習）	実際に調理を行い、知識を深め、技術を習得する
13・14	自立に向けた家事の介護 洗濯・掃除・ごみ捨ての介助	実際に洗濯を行い、知識を深め、技術を習得する
15・16	自立に向けた家事の介護 裁縫	実際に裁縫を行い、知識を深め、技術を習得する
17・18	自立に向けた家事の介護 衣類・寝具の衛星管理	教科書・プリント
19	家事の介護における多職種との連携	教科書・プリント
20	学期末試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験60％、課題・提出物　30％、出席率・学習意欲10％ 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	教育現場	年間従事（家政学）

科目名	生活支援技術Ⅱ（1）				
担当教員	矢尾板　美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	60
授業概要、目的、授業の進め方	・私たちは、日々基本的な日常動作を駆使しながら生活を営んでいる。 尊厳の保持の観点からその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた安全な介護技術を習得する。 ・利用者を科学的根拠に基づき、個々の心身状態に応じた適切な介護の知識技術を講義・グループワーク・演習を通して学ぶ。				
学習目標（到達目標）	1．ICFの視点から、個々の心身状態に応じた適切な介護の基礎的知識技術を習得する。 2．福祉用具の選択・活用ができ介護場面における実践ができる。 3．安全やプライバシーに配慮しながら介護実践ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト『生活支援技術Ⅱ』（中央法規出版） 配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	オリエンテーション 自分の生活を知る	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に知識・技術を深め習得する
3・4	基本となる介護技術とは何か	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に知識・技術を深め習得する
5・6	自立に向けた身じたくの介護（意義と目的）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に身じたくの知識を深める
7・8	自立に向けた身じたくの介護（アセスメント、工夫）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に身じたくの知識を深める
9・10	自立に向けた身じたくの介護（介護の技法）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 身じたくの介護の技術を深め習得する
11・12	自立に向けた身じたくの介護（留意点）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 身じたくの介護の技術を深め習得する
13・14	自立に向けた移動の介護（意義と目的）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に移動の介護の知識を深める
15・16	自立に向けた移動の介護（アセスメントと工夫）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に移動の介護の知識を深める
17・18	自立に向けた移動の介護（介護の技法）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 移動の介護の技術を深め習得する
19・20	自立に向けた移動の介護（留意点）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 移動の介護の技術を深め習得する
21・22	自立に向けた移乗の介護（意義と目的）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に移乗の介護の知識を深める
23・24	自立に向けた移乗の介護（アセスメントと工夫）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に移乗の介護の知識を深める
25・26	自立に向けた移乗の介護（介護の技法）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 移乗の介護の技術を深め習得する
27・28	自立に向けた移乗の介護（留意点）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 移乗の介護の技術を深め習得する
29・30	自立に向けた食事の介護（意義と目的）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に食事の介護の知識を深める
31・32	自立に向けた食事の介護（アセスメントと工夫）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に食事の介護の知識を深める
33～36	自立に向けた食事の介護（介護の技法）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 食事の介護の技術を深め習得する
37～40	自立に向けた食事の介護（留意点）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 食事の介護の技術を深め習得する
41・42	自立に向けた入浴・清潔の介護 （意義と目的・アセスメントと工夫）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に入浴・清潔の介護の知識を深める
43～45	自立に向けた入浴・清潔の介護（介護の技法）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 入浴・清潔の介護の技術を深め習得する
46～48	自立に向けた入浴・清潔の介護（留意点）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 入浴・清潔の介護の技術を深め習得する
49・50	自立に向けた排泄の介護（意義と目的・アセスメントと工夫）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に排泄の介護の知識を深める
51・52	自立に向けた排泄の介護（アセスメントと工夫）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に排泄の介護の知識を深める
53～55	自立に向けた排泄の介護（介護の技法）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 排泄の介護の技術を深め習得する
56～58	自立に向けた排泄の介護（留意点）	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 排泄の介護の技術を深め習得する
59・60	実技テスト	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験90%、出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	生活支援技術Ⅱ（2）				
担当教員	矢尾板　美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	40
授業概要、目的、授業の進め方	・私たちは、日々基本的な日常動作を駆使しながら生活を営んでいる。 尊厳の保持の観点からその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた安全な介護技術を習得する。 ・利用者を科学的根拠に基づき、個々の心身状態に応じた適切な介護の知識技術を講義・グループワーク・演習を通して学ぶ。				
学習目標（到達目標）	1．ICFの視点から、個々の心身状態に応じた適切な介護の基礎的知識技術を習得する。 2．福祉用具の選択・活用ができ介護場面における実践ができる。 3．安全やプライバシーに配慮しながら介護実践ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト『生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）　　テキスト『生活支援技術Ⅱ』（中央法規出版） 配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	オリエンテーション 介護実習から介護支援技術を振り返り	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 グループワークを中心に知識・技術を深め習得する
3～6	自立に向けた身じたく介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 身じたくの介護技術について知識深め技術を習得する
7～12	自立に向けた移動の介護	テキスト『生活支援技術Ⅰ』使用 移動の介護技術tについて知識深め技術を習得する
13～18	自立に向けた移乗の介護	テキスト『生活支援技術Ⅰ』使用 移乗の介護技術について知識深め技術を習得する
19～24	自立に向けた食事の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 食事の介護技術について知識深め技術を習得する
25～30	自立に向けた入浴・清潔の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 入浴・清潔の介護技術について知識深め技術を習得する
31～36	自立に向けた排泄の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 排泄の介護技術について知識深め技術を習得する
37・38	まとめ	テキスト『生活支援技術Ⅰ』『生活支援技術Ⅱ』使用 これまで学んだ介護技術について知識深め技術を習得する
39・40	実技試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験60%、課題・提出物　30%、出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	介護過程Ⅰ				
担当教員	矢尾板　美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	・他の科目で学習した介護の知識・技術を統合して、介護過程を展開する意義を理解する。 ・介護の支援対象が誰であり、どのような場面であっても、その人の生活課題を理解し、目標を設定し、求められる支援を導く思考方法を理解する。				
学習目標（到達目標）	1．介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であることを理解する。 2．ニーズを把握する視点として、ICFの考え方を正しく理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト『介護過程』（メジカルフレンド社） 配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	介護過程の意義・目的・目標	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
3・4	介護過程の体系について	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
5・6	介護過程とICF	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
7・8	ICFの特性の概要	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
9・10	ICFにおける「活動・参加」	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
11・12	ICFにおける自立と参加	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
13・14	ICFにおける「個人因子」と「環境因子」	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
15・16	ケアプランの意義と目的	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
17・18	介護過程の実践的展開	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
19・20	アセスメントの意義と目的	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
21・22	アセスメントの方法	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
23・24	観察・記録	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
25・26	情報収集における「事実」の捉え方	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
27・28	介護過程の実践的展開 （情報の分析・統合によるニーズの明確化と課題の抽出）	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
29	まとめ	
30	試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	介護総合演習①				
担当教員	矢尾板美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	介護実習の意義と目的を理解し、介護実習Ⅰにおける実習目的・目標を学ぶ。介護実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びができるために必要な知識・技術態度について学ぶ。				
学習目標（到達目標）	①実習施設の理解を深めるとともに、施設職員の業務及び役割を理解する ②実習における自己課題を設定し、評価ができる ③実習における態度・倫理等を学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新介護福祉全書：介護総合演習：メディカルフレンド社				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	介護総合演習（1）オリエンテーション	講義・演習
2	実習の意義	講義・演習
3	実習施設の概要①	講義・演習
4	実習施設の概要②	講義・演習
5	施設の理解（他職種の理解）①	講義・演習
6	施設の理解（他職種の理解）②	講義・演習
7	実習目標の立て方、自己の実習課題の明確化①	講義・演習
8	実習目標の立て方、自己の実習課題の明確化②	講義・演習
9	実習目標・実習計画の策定①	講義・演習
10	実習目標・実習計画の策定②	講義・演習
11	実習記録の書き方①	講義・演習
12	実習記録の書き方②	講義・演習
13	実習記録の記述訓練①	講義・演習
14	実習記録の記述訓練②	講義・演習
15	介護職員の業務①	講義・演習
16	介護職員の業務②	講義・演習
17	他職種との理解と連携のあり方①	講義・演習
18	他職種との理解と連携のあり方②	講義・演習
19	実習時の心構え①	講義・演習
20	実習時の心構え②	講義・演習
21	実習生および介護専門職としての自覚①	講義・演習
22	実習生および介護専門職としての自覚②	講義・演習
23	施設生活者の理解①	講義・演習
24	施設生活者の理解②	講義・演習
25	アクティビティ活動について①	講義・演習
26	アクティビティ活動について②	講義・演習
27	社会人としてのマナーについて①	講義・演習
28	社会人としてのマナーについて②	講義・演習
29	まとめ①	講義・演習
30	まとめ②	講義・演習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
報告会内容60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名					
担当教員	矢尾板美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	介護実習Ⅰの実習目標・課題を明確化するとともに、利用者、家族のニーズに対する介護福祉士の役割とチームにおける役割が理解できる。介護福祉職としての人間的なかかわりを深めるための、コニュニケーション能力や実習生としての知識・具術を習得するとともに、専門職として自覚を高める				
学習目標（到達目標）	①介護実習Ⅰの実習の実習施設の概要と利用者の生活にニーズを整理。理解できる、 ②個別介護の重要性を理解し、自己覚知につなげられるようにする。 ③基礎的生活支援技術を踏まえ、技術の応用について体得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新介護福祉全書：介護総合演習：メディカルフレンド社				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	介護実習Ⅰ-1段階を振り返り、介護実習Ⅰ-2段階の課題を考える	演習
2	介護実習Ⅰ-2段階の意義	演習
3	介護実習Ⅰ-2段階を振り返り、介護実習Ⅰ-３段階の課題を考える①	演習
4	各施設の法的根拠	演習
5	介護計画作成プロセス①	演習
6	介護計画作成プロセス②	演習
7	個別介護計画の実際①	演習
8	個別介護計画の実際②	演習
9	プロセスレコードの意義・目的・目標①	演習
10	プロセスレコードの意義・目的・目標②	演習
11	プロセスレコードの実際①	演習
12	プロセスレコードの実際②	演習
13	プロセスレコードの実際③	演習
14	プロセスレコードの実際④	演習
15	個別介護計画のまとめ①	演習
16	個別介護計画のまとめ②	演習
17	介護実習Ⅰ-３段階の課題の確認①	演習
18	介護実習Ⅰ-３段階の課題の確認②	演習
19	介護実習計画の立案①	演習
20	介護実習計画の立案②	演習
21	介護計画の立案および提出書類の作成①	演習
22	介護計画の立案および提出書類の作成②	演習
23	介護計画の立案および提出書類の作成③	演習
24	介護計画の立案および提出書類の作成④	演習
25	カンファレンスの意義・目的と実際①	演習
26	カンファレンスの意義・目的と実際②	演習
27	実習に関連する生活支援技術の確認①	演習
28	実習に関連する生活支援技術の確認②	演習
29	まとめ	まとめ
30	まとめ	まとめ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
報告会内容60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	発達と老化の理解Ⅰ				
担当教員	野川みどり		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	人間が成長・発達・成熟・老化と加齢によってこころとからだがどのように変化し、それをどのように受容していくのか。高齢者のさまざまな問題を学ぶ。授業の進め方として、演習を多く取れ、自ら学ぶことができるようにしていく				
学習目標（到達目標）	①人間の成長と発達・老年期の発達と成熟が理解できる ②老いの価値観と受容、老化を及ぼす心的影響が理解できる。授業で学んだことを理解し、自分のことばで話すことができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①介護福祉士養成講座編集委員会編集：新介護福祉士養成講座委員会：11発達と老化の理解：中央法規2015年 ②見て覚える介護福祉士国家試験ナビ2018				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	授業の目的・授業の進め方についての説明
2・3	第1章人間の成長と発達第 1節発達とは	（講義）Ｐ２～10プリント
4・5・6	第1章人間の成長と発達第 2節人間の発達段階と発達課題	（講義）Ｐ11～18プリント（演習）エリクソンの発達段階の説の理解グループにて話し合う
7・8・9	第1章人間の成長と発達第 3節発達と個人差	（講義）Ｐ19～27プリント（演習）事例を読んで、寝たきりを防ぐことに効果的な日常生活の行動を考える
10・11・1	第2章老年期の発達と成熟 第1節老化とは	（講義）Ｐ30～39プリント（演習）高齢者イメージについて
13・14・1	第2章老年期の発達と成熟 第2節老年期の発達課題の留意点	（講義）Ｐ40～48プリント
16・17・1	第３章老化に伴うこころの変化と日常生活 第1節老化が及ぼす心理影響	（講義）Ｐ52～65プリント（演習）事例について考える
19・20・2	第３章老化に伴うこころの変化と日常生 活第2節老いの価値観・受容	（講義）Ｐ68～81プリント（演習）高齢者のＱＯＬについてグループで話し合い発表
22・23・2	第３章老化に伴うこころの変化と日常生活第 3節高齢者のこころの問題と精神障害	（講義）Ｐ82～89プリント・認知症についての振り返り
25・26・2	第３章老化に伴うこころの変化と日常生活第 4節高齢者のこころの問題と精神障害	（講義）Ｐ94～126・老化に伴う身体機能の変化についてのプリントまとめを行う
28	第4章老化に伴うからだの変化と日常生活 第1節老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響	（講義）Ｐ129～135プリント
29	まとめ	まとめ・振り返り
30	学期末テスト	学期末テスト

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として25年医療現場・介護現場で関わってきた

科目名	発達と老化の理解Ⅱ				
担当教員	野川みどり		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	人間が成長・発達・成熟・老化と加齢によってこころとからだがどのように変化し、それをどのように受容していくのか。高齢者のさまざまな問題を学ぶ。授業の進め方として、演習を多く取れ、自ら学ぶことができるようにしていく				
学習目標（到達目標）	①老化に伴うからだの変化と日常生活が理解できる②高齢者の健康が理解できる。授業で学んだことを自分のことばで説明ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①介護福祉士養成講座編集委員会編集：新介護福祉士養成講座委員会：11発達と老化の理解：中央法規2015年 ②見て覚える介護福祉士国家試験ナビ2018				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1 ～ 5	第5章高齢者と健康第1節高齢者の症状・疾患の特徴	（講義）Ｐ140～146プリント（演習）事例をグループで検討・高齢者の症状・特養をつかむ
6～10	第5章高齢者と健康第2節高齢者に多い症状・訴えとその留意点	（講義）Ｐ1147～164プリント
11～22	第5章高齢者と健康第3節高齢者に多い病気とその留意点	（講義）Ｐ167～266（演習）代表的な疾患についてグループで調べ発表をする
23～26	第5章高齢者と健康第4節保健医療職との連携	（講義）Ｐ267～277プリント（演習）多職種への報告についてグループで考える
27・28・29	まとめ	まとめ・振り返り
30	学期末テスト	学期末テスト

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として25年医療現場・介護現場で関わってきた

科目名	認知症の理解Ⅰ				
担当教員	野川　みどり		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	認知症の原因となる主な疾患・症状や治療・予防方法・認知症によって引き起こされる機能や行動の変化や心理的変化、日常生活への影響を学ぶ、認知症を正しく理解する。授業の進め方として講義と演習グループワークを基本に行うまた、DVDの教材を使いながら認知症についての理解を深めていく				
学習目標（到達目標）	①認知症歴史、今後の課題②認知症の主な疾病、検査、治療③認知症の人の行動・心理を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	1、介護福祉士養成講座編集委員会：新介護福祉士養成講座12：認知症の理解（中央法規出版） 2、２０１８介護福祉士国家試験、書いて覚える合格ドリル（中央法規出版）				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	認知症の理解を学習する意味・授業の進め方の説明 （演習）認知症の方のイメージを学生同士ではなす
2	第1章　認知症を取り巻く状況 第1節認知症とは何か①認知症とは何か②認知症の特徴を理解する	教科書Ｐ２～5プリント （講義）①認知症とは・認知症の特徴を説明 （演習）生活障害について考える
3・4	第1章　認知症を取り巻く状況 第2節認知症ケアの歴史①認知症の人がどの様④扱われてきたのか、その歴史を学ぶ	教科書P6～15プリント （講義）①認知症の人の現状とこれから②認知症ケアの歴史の説明 （演習）治療優先、集団管理的ケアの問題点についてグループで話し合い・発表
5・6・7	第1章　認知症を取り巻く状況 第3節認知症ケアの理念と視点①認知症を中心としたケアからその人を中心としたケアに転換することの意義を理解する②問題視するのでなく、人として接することを理解する③できないことではなく、できることを見て、支援するすることを理解する	教科書P16～21プリント （講義）①認知症ケアの理念②認知症ケアの視点を説明
8・9・10・11	第2章認知症の人の医学・行動・心理的理解第1節認知症の人の行動・心理症状①認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを見極める②病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことを学ぶ	教科書P24～43プリント （講義）①認証のさまざまな症状②中核症状の理解③周辺症状とBPSDについて （演習）認知症関係のDVD鑑賞感想を発表
12・13	第2章認知症の人の医学・行動・心理的理解 第2節脳のしくみ①老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する②認知症とうつ病の違いを学ぶ③認知症と類似した症状をもつ疾病を学ぶ	教科書P44～57プリント （講義）①老化のしくみ・脳の機能と認知症②認知症ともの忘れの違い・類似した状態について説明
14・15・16	第2章認知症の人の医学・行動・心理的理解 第3節認知症の原因疾患①アルツハイマー型認知症・血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ	教科書P58～67プリント （講義）①認知症原因疾患の説明
17・18	第2章認知症の人の医学・行動・心理的理解第4節認知症の診断と治療①認知症の診断過程と評価、治療について学ぶ	教科書P69～83プリント （講義）①診断過程②認知症重症度の評価③認知症の治療の説明
19・20	第2章認知症の人の医学・行動・心理的理解 第5節認知症の予防①認知症になる要因について学ぶ②認知症の予防対策について学ぶ	教科書P84～89プリント （講義）①危険因子対策についての説明 （演習）学生自身の現在の生活習慣を比較し、予防には何が必要か考え発表
21・22	第2章認知症の人の医学・行動・心理的理解 第6節認知症の人の心理的理解①認知所の人の心理状態について学修する ②精神分析・行動分析・ロールプレイングを用いた心理的理解について学ぶ	教科書P90～104プリント （講義）①心理的理解・ブラックボックス②原因疾患・認知機能障害が与える影響とその心理③自我心理学・応用行動分析・ロールプレイングについてのの説明 （演習）相手の気持ちを体験する（ロールプレイングを用いた理解）を行う
23・24・25	第3章認知症の人の体験 第1節認知症の人の介護をしていくために①認知症の人を特別視するのではなく、身近な存在として意識する②認知症の人本来の介護とは何か、その基本的な視点を学ぶ③本人本位の視点を学ぶ	教科書P106～111プリント（講義）①認知症の人の将来推計の説明 （演習）「本人の声」に学ぶ、文章を読んで本人の体験、求めていることについて考える
26・27・28	第3章認知症の人の体験 第2節認知症の人の体験①認知症の人がどの様な体験をしているのか ②認知症の人の体験について、どのような介護が必要とされているのか考える	教科書P112～121プリント （講義）①本人が生きていくための体験②介護が目指すものについて説明 （演習）認知症の疑似体験を行い発表
29	まとめ	振り返り
30	期末試験	期末試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

科目名	認知症の理解Ⅱ				
担当教員	野川　みどり	実務授業の有無	○		
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	認知症の中核症状、周辺症状を理解し認知症の人やその家族に対する支援、若年性認知症の人やその家族に対する支援について学ぶ。授業の進め方として講義と演習グループワークを基本に行うまた、DVDの教材を使いながら認知症についての理解を深めていく				
学習目標（到達目標）	①認知症のある人の生活が理解できる②認知症のある人に対する介護が理解できる③家族への支援、多職種や地域との連携が理解できる④認知症に関する制度・関係機関・介護保険制度について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	1、介護福祉士養成講座編集委員会：新介護福祉士養成講座12：認知症の理解（中央法規出版） 2、小板橋喜久代・松田たみ子編：こころとからだのしくみ２０１２（メディカルフレンド社） 3、２０１８介護福祉士国家試験、書いて覚える合格ドリル（中央法規出版）				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2・3	第4章認知症の人の生活理解 第1節認知機能の変化が生活が生活に及ぼす影響 ①認知機能の変化が、本人の生活にどの様な影響を及ぼすのか学ぶ ②人間にとっての「生活」とは何かを考える ③失われた能力ばかりを考えるのではなく、残された能力をいかに活用するか、それが認知症介護だという視点をもつ	教科書P124～131プリント（講義）①「人」と「生活」の理解②認知機能の障害が生活に及ぼす影響を説明（演習）「生活」をわかりやすくほかの人に説明
4・5・6・7	第4章認知症の人の生活理解 第2節環境の力①認知症の人の行動と環境との関係を理解する②効果的な環境のはたらきを知る③環境を活かして介護を提供する上での課題を理解する	教科書P132～143プリント（講義）①認知症の症状と環境②環境によるはたらきかけ③環境を力にした介護の課題についての説明（演習）実習（グループホームでの環境）についての発表
8・9	第4章認知症の人の生活理解 第3節生活を続ける①認知症になっても、これまでの生活を続けるためには必要な事柄を学ぶ②専門職として、生活の継続にどの様に関わればよいのかを学ぶ	教科書P144～163プリント（講義）①生活を構成する要素について説明②リロケーションダメージについての説明
10・11・12	第4章認知症の人の生活理解 第4節若年性認知症の人の生活の理解と支援①若年性認知症の人を取り巻く状況を理解する②若年性認知症の人の生活と必要な支援について学ぶ	教科書P159～163（講義）（演習）若年性認知症関係のDVD鑑賞・若年性認知症についての理解を深める
13・14	第5章認知症の人に対する介護第1節認知症の人へのかかわりの基本①援助者としての自分を確認する②認知症の人にかかわる際の基本的な姿勢を学ぶ③認知症の人が落ち着いて過ごせるためのかかわりを学ぶ	教科書P166～174プリント（講義）①かかわる際の前提②実際のかかわり方の基本を説明
15・16	第5章認知症の人に対する介護 第2節認知症への気づき	教科書P176～181（講義）（演習）①認知症への気づきの学習②事例を振り返る
17・18	第5章認知症の人に対する介護 第3節認知症の人の介護過程①認知症の人に対する介護過程の展開を学ぶ	教科書P183～196（講義）①認知症の介護過程の展開（認知症の人の心理的ニーズ）
19・20	第5章認知症の人に対する介護 第4節認知症の進行に応じた介護①認知症に応じた介護を学ぶ	教科書P197～224（講義）プリント①初期・中期・後期それぞれの介護について説明（演習）初期・中期・後期それぞれの介護についてグループワーク
21・22	第5章認知症の人に対する介護 第5節人が生きることを支えること①高齢になって障害を抱えて生きる意味を学ぶ②人が生きることを支える際の介護職の役割	教科書P225～230（演習）①認知症の方の手紙を読み「生きる」について考える
23・24	第6章地域の力を活かす第1節地域におけるサポート体制①地域で暮すために必要な資源をとらえなおす②地域のサポート体制をについて見直す2節チームアプローチ	教科書P232～249（講義）（演習）①地域を基盤としたサポート体制について調べる
25・26	第7章家族の力を活かす第1節介護者自身の体験第2節家族へのレスパイトケア・エンパワメント第3節家族会介護教室	教科書P252～275（講義）（演習）①家族自身の体験・レスパイトケア・エンパワメントとはどのような事かグループで調べ発表
27・28	第8章認知症に関する制度・関係機関など第1節認知症対策と介護保険第2節その他の施策	教科書P278～300（講義）（演習）介護保険以前の認知症対策・介護保険開始後の認知症対策について説明
29	まとめ	振り返り・まとめ
30	学期末試験	学期末試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

科目名	障害の理解Ⅰ				
担当教員	野川みどり		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	「障害」とはどのようなものか、「障害」の概念や「障害者福祉」の基本理念を学ぶ、生活支援を行うための、それぞれの障害の医学的理解、生活を学ぶ。授業の進め方としては、演習グループワークを加えながら自らが学べるように進めていく				
学習目標（到達目標）	授業の内容を理解し、学んだことを自分のことばで述べる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	1、介護福祉士養成講座編集委員会：最新　介護福祉士養成講座１４　障害の理解 2、見て覚える介護福祉士国試ナビ2018				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	授業の目的・授業の進め方についての説明
2・3	第1章障害の基本的理解第 1節障害の概念①障害のある人の暮らしについて学ぶ②「障害」とはどう結うものなのかについて考えを学ぶ③障害者の法的定義について学ぶ	（講義）教科書Ｐ２～21プリント
4・5	第1章障害者の基本的理解 第2節障害者福祉の基本的理念①ノーマライゼーション②リハビリテーションの意味を学ぶ③インクルージョンの歴史的経緯と展望を学ぶ	（講義）教科書P24～44プリント
6・7	第2章障害のある人の生活の理解Ⅰ 第1節視覚障碍者のある人の生活①視覚の構造と機能、視覚障害の原因となる主な眼疾患を理解する②視覚障害者の心理的影響、視覚障害の受容を理解する③視覚障害のある人が日常生活でどの様な不自由さをもち、なぜその不自由さを克服する訓練を行うのかについて理解する④障害者のある人の介護上の留意点を理解する	（講義）教科書P48～59プリント（演習）視覚障害者の体験・事例についての意見交換を行う
8・9	第2章障害のある人の生活の理解 第2節聴覚・言語障害のある人の生活①聴覚・言語障害とは、どのような障害なのか学ぶ②聴覚・言語障害は、日常生活や社会生活にどの様な影響を与えるのかを理解する③聴覚・言語障害のある人の介護を行う場合、どの良な点に注意する必要があるのかを学ぶ	（講義）教科書P60～69プリント（演習）聴覚障害のある人のコニュニケーション方法・補聴器をつけた高齢者を介護する上での留意点について話し合う
10・11	第2章障害のある人の生活の理解第 3節重症障害のある人の生活①どのような障害なのか学ぶ②日常生活や社会生活にどの様な影響を与えるのか理解する③介護を行う場合、どのような点に注意する必要があるのかを学ぶ	（講義）教科書P70～80プリント（演習）盲ろう者のコニュニケーション方法・手書き文字による意思疎通支援について実際に行ってみる
12・13・14	第3章障害のある人の生活の理解Ⅱ 第1節肢体不住のある人の生活①原因や代表的な障害の状態像について学ぶ②「障害受容」の過程や、その際に重要な要素は何かを学ぶ③生活状況について学ぶ④本人を主体とした介護を行っていくために必要な考え方を学ぶ	（講義）教科書P82～97プリント・ipatにて肢体不自由の状態像を知る
15・16・17	第3章障害のある人の生活の理解Ⅱ 第2節知的症ギアのある人の生活①地域生活と介護による支援と関係性を学ぶ②「参加」と「自立」の関係性を学ぶ	（講義）教科書P101～110プリント（演習）ロールプレイングを行い本人主体を支える方法を考える
18・19・20	第3章障害のある人の生活の理解 第3節精神障害のある人の生活①医学的理解②生活の理解③介護の留意点④サービスや制度	（講義）教科書P111～124プリント（演習）幻覚・妄想への介護職としての対応をグループで話し合う
21・22・23	第3章障害のある人の生活の理解第 4節高次脳機能障害のある人の生活①医学的理解②生活の理解③介護上の留意点を学ぶ	（講義）教科書P125～133プリント（演習）高次脳機能障害の症状への対応方法についてグループで話し合う
24・25・26	第3章障害のある人の生活の理解 第5節発達障害野ある人の生活①発達障害とは、特徴、②制度③発達障害のある人への介護について理解する	（演習）発達障害、対応についてそれぞれ調べ発表をする
27・28	第3章障害のある人の生活の理解 第6節重症心身障害のある人の生活①歴史と定義、生活の特性と介護ののポインとを学ぶ	（講義）教科書P145～151プリント（演習）重症心身障害児の散歩の介護をグループで考える
29	まとめ	まとめ質疑・応答
30	期末試験	期末試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として25年実務経験

長岡こども・医療・介護専門学校

科目名	こころとからだのしくみⅠ				
担当教員	野川みどり		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ	60
授業概要、目的、 授業の進め方	介護・生活支援を必要とする人に安全で安楽な介護技術を提供するための根拠となる・人間のこころとからだの基本的な構造や機能を学ぶ授業であり、進め方はプリントを中心、人体模型や人体のイラストを書くなどわかりやすくかつ覚えやすいように工夫を行っていく				
学習目標 （到達目標）	人間のこころとからだの構造を理解し、学生が自分なりに説明ができることを目標とする				
テキスト・教材・参考図書・ その他資料	1、介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座１１：こころとからだのしくみ（中央法規出版） 2、小板橋喜久代・松田たみ子編：こころとからだのしくみ２０１２（メディカルフレンド社） 3、２０１８介護福祉士国家試験、書いて覚える合格ドリル（中央法規出版）				

コマ		学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション　授業の位づけの理解・授業スケジュール説明	教科書・プリント使用　（講義）
2・3	序章　「健康」とは何か　健康の定義を理解する	教科書P2～P７　プリント使用（講義） （演習）あなたにとっての健康とはを考える
4・5・6	第1章　こころのしくみを理解する 第1節　人間の欲求 ①基本的欲求の理解 ②社会的欲求の理解 ③他の欲求との比較から・「自己実現の欲求」の本質的な違いを学ぶ	教科書P10～P18（講義） マズローの欲求段階説について説明基本的欲求・社会的欲求それぞれについて身近な題材を用いて説明 プリント(演習) マズローの欲求段階説を自分で記入する
7・8・9	第2節　自己実現と尊厳 ①自己概念に影響する要因 ②自立への意欲と自己概念 ③自己現実と尊厳、生きがいについての理解 ④高齢者のための国際原則について学ぶ	教科書P19～P23プリント使用（講義） 自己実現に関連する概念や事項について身近な題材を用いて説明
10・11	第3節　こころのしくみの基礎 ①脳とこころの関係についての理解 ②脳のもつ機能についての理解	教科書P24～P27 （講義）「こころ」とはなにか・脳のしくみ プリント（演習）　大脳皮質の区分と機能局在・大脳辺縁系の位置の名称記入
１２・１ ３・１４	第３節　こころのしくみの基礎 ①認知のしくみ　②学習・思考のしくみ ③感情・情動・意欲・動機づけしくみの理解 ④記憶の分類の理解と説明ができる	教科書P～P28 （講義）認知のしくみについての説明・条件づけと観察学習についての説明（パブロフ・スキナー） 記憶の段階・分類についての説明　（身近な材料を用いる） 感情・情動・意欲・動機づけのしくみの説明 プリント（演習）記憶の分類についての名称記入
15・16・ 17	第３節　こころのしくみの基礎 ①適応についての理解 ②適応機制・防御規制についての理解と説明ができる	教科書ｐ35～P37 （講義）適応とは、適応の異常・適応機制・防御規制について例を挙げての説明 プリント(演習）適応機制確認問題
18・19・ 20	第2章　からだのしくみを理解する 第1節からだのしくみ ①身体各部の名称の理解と説明ができる	教科書P40～P42 （講義）①ここまでの確認小テスト ②細胞、遺伝についての説明・身体各部の名称の説明
21・22・ 23	第１章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①神経の分類 ②中枢神経③末梢神経についての理解と説明ができる ④交感神経・副交感神経の働きについての理解と説明ができる	教科書P43～46 （講義）神経系の分類(中枢神経・末梢神経）についての説明 交感神経・副交感神経の働きを身近な材料を用いて説明 プリント（演習） ①脳の構造　②脊髄に構造③脳神経の名称記入④交感神経と副交感神経の働きについて記入
24・25・ 26	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①視覚器②平衡感覚・嗅覚器③味覚器についての理解と説明ができる	教科書ｐ47～P49 （講義）感覚器についての説明 プリント（演習）眼球のイラスト名称・耳の名称記入
27・28・ 29	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①内臓の名称を理解説明ができる	教科書ｐ49～P51 （講義）人体模型を用い内臓の名称・位置を説明 プリント（演習）内臓の名称記入
30・31	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①呼吸器についての理解と呼吸器の名称が説明できる	教科書P52 （講義）人体模型を用い内臓の名称・位置・働きを説明 プリント（演習）呼吸器の名称記入
32・33・ 34	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①心臓②血管系についての理解、説明ができる	教科書P53～P55 （講義）人体模型を用い内臓の名称・位置・働きを説明 プリント（演習）呼吸器の名称記入
35・36・ 37・38	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①消化器系の理解②消化管・消化器線の名称理解、説明ができる	教科書P55～57 （講義）人体模型を用い消化器系の名称・位置・働きを説明 プリント（演習） ①消化器に関するイラスト・名称記入 ②肝臓とその周辺の構造のイラスト・名称
39・40・ 41	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①泌尿器系の理解②泌尿器の名称の理解、説明ができる	教科書P58～P59 （講義） ①人体模型を用い泌尿器の名称・位置を説明②尿の生成についての説明 プリント（演習）①泌尿器のイラスト、名称記入
42・43・44	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①骨の生理的作用の理解、説明ができる ②全身の骨格の名称の理解、説明ができる	教科書P60～P61 （講義） ①骨格模型を用い骨の名称・位置を説明②　骨の生理的作用の説明 プリント（演習）①全身の骨格名称記入
45・46	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①骨の働きを理解、説明ができる ②骨量低下の影響・転倒についての理解ができる	教科書P62 （講義） ①骨格模型を用い骨の名称・位置を説明②　骨の生理的作用の説明 プリント（演習）①全身の骨格名称記入
47・48・49	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ　（関節、筋肉の動き） ①代表的な骨格筋についての名称の理解、説明ができる ②関節の働き・可動域についての理解、説明ができる ③筋肉の役割について理解、説明ができる ④筋肉減少による影響、弊害と予防について理解ができる	教科書P63～P67 （講義） ①筋肉イラストを用いて名称・位置を説明 ②関節可動域の説明（関節の拘縮、予防） ③筋肉の役割④筋肉の減少による影響・予防弊害の説明 プリント（演習）①代表的な骨格筋名称記入
50	第2章　からだのしくみを理解する 第１節からだのしくみ ①バランス・敏捷性の理解 ②バランス敏捷性の低下による影響についての理解 ③予防	教科書P68～69 （講義） ①バランス・敏捷性についての説明 （演習）バランス・敏捷性の低下によってどのような影響が起こるのか考える
51・52	第2章　からだのしくみを理解する 第1節からだのしくみ ①生殖器のしくみを理解する ②内分泌系の位置・名称・ホルモンについての理解（脾臓からのホルモンについての理解と説明ができる）	教科書P69～P75 （講義） ①生殖器についての働き説明②ホルモンについての説明 ③内分泌系それぞれの名称・部位の説明・ホルモンの名称・作用についての説明 ③脾臓の内分泌ホルモンについての説明 プリント（演習）内分泌それぞれの位置・ホルモンの名前・作用の記入
53・54	第2章　からだのしくみを理解する 第1節からだのしくみ（血液・体液・リンパ） ①血液の成分について理解する ②体液の恒常性（ホメオスタシス）について理解する	教科書P75～P77 （講義） ①血液の成分、働きについての説明②体液・恒常性についての説明 プリント（演習）血液の成分名称作用について記入
55・56・ 57	第２章　からだのしくみを理解する 第2節体に関連する役割・くすりの知識 ①生命の維持と恒常性ににについて理解する ②バイタルサインとは何かを説明ができる ③介護福祉士に必要な薬の知識を学ぶ	教科書P77～82 （講義） ①生命を維持するための恒常性の役割について説明 ②バイタルサインとは説明 ③薬の吸収や効果に関係する組織や臓器の説明 ④薬の主な使用目的⑤投与方法について説明⑤高齢者の副作用についての説明 ⑥注意点⑦介護福祉士が行えることについての説明 （演習）バイタルの測定を実際に行いバイタルサインの重要性を考える
58・59	第1章・第2章のまとめ	（講義）こころとからだのしくみまとめ（質疑・応答）
60	こころとからだのしくみⅠ学期末試験	こころとからだのしくみⅠ学期末試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

科目名	こころとからだのしくみⅡ				
担当教員	野川みどり	実務授業の有無	○		
対象学科	介護福祉科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		コマ	60
授業概要、目的、 授業の進め方	介護を必要とする人に、安全で安楽な介護を提供するために、人間の「主要な生活動作」に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。授業はテキスト・プリントを用い、演習を行い理解を深める				
学習目標 （到達目標）	①移動・身じたく・食事・入浴や清潔保持・排泄・睡眠等利用者の生活・自立支援に必要な介護実践に直接関連する基礎的知識、機能低下や障害が及ぼす影響、医療職との連携等 ②死にゆく人のこころとからだのしくみ（死の捉え方、終末期から死に至るからだの理解、死に対するこころの理解、医療職との連携				
テキスト・教材・参考図書・ その他資料	1、介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座１１：こころとからだのしくみ（中央法規出版） 2、小板橋喜久代・松田たみ子編：こころとからだのしくみ２０１２（メディカルフレンド社） 3、２０１８介護福祉士国家試験、書いて覚える合格ドリル（中央法規出版）				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2・3	第3章　移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節　移動のしくみ 人が移動する必要性や移動の効果について学ぶ	教科書P84～P88・プリント（講義） ①なぜ移動をするのか②基本的なな姿勢③ボディネカニクスの説明 （演習）姿勢・バランス・良肢位・ポジショニング・
3・4・5	第3章　移動に関連したこころとからだのしくみ 第１節　移動のしくみ 人が移動する必要性や移動の効果について学ぶ 移動するためのからだのしくみを理解する	教科書P91～P97・プリント（講義） ①移動に関連したこころのしくみ②移動に関連したからだのしくみの説明 （演習）①臥位から立位②車いすの駆動を実際に体験し筋肉の働きを知る
6・7・8	第3章　移動に関連したこころとからだのしくみ 第2節　心身の機能低下が移動に及ぼす影響 移動が不自由になる要因を学ぶ 移動が不自由になると生じる状態について学ぶ	教科書100～P105・プリント（講義） ①意欲を低下させる要因②骨折ともなう移動能力の低下③廃用症候群・褥瘡 ④疾患に伴う機能低下の説明 （演習）ベッドに上肢位・車いすに座位に実際になり褥瘡の好発部位がどの位置になるのかを知る
9・10	第3章　移動に関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応 日常生活のなかでの観察ポイントを学ぶ	教科書P106～P109・プリント（講義）①移動での観察ポイント②移動での医療職との連携ポイント（演習）利用者の変化の気づきと対応についてグループで考え、発表
11・12・13・14	第4章　身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第1節身じたくのしくみ 生活のなかれ行われている身じたくに関する、こころとからだの基本項目について理解する	教科書P112～P129プリント（講義） ①なぜ身じたくを整えるのか②身じたくに関連したこころのしくみ ③身じたくに関連したからだのしくみの説明 （演習）口臭の予防と対応についてグループを考え、発表
15・16	第4章　身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第２節心身の機能低 下が身じたくに及ぼす影響　老化にともなう機能低下について学ぶ　身じたくを整えることをさまたげる、要因について理解する	教科書P131～P136プリント（講義）①意欲の低下②眼の機能低下による変化③爪の老化による変化④毛の変化による変化⑤口腔の老化による変化についての説明
17・18	第4章　身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第３節変化の気づきと対応 身じたくを支援する際の観察のポイントについて学ぶ 他職種と連携するうえでどの様な判断が必要かを理解する	教科書P137～P145プリント （演習）①身じたくを支援する際の観察・対応ポイントをグループで考え発表、 捕捉説明をおこなう （講義）医療職との連携ポイントの説明
19・20・21・22	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節食事のしくみ 人間に不可欠な栄養素を学ぶ 摂食・嚥下にかかわる解剖としくみを理解する食事の種類を学ぶ	教科書P149～P154プリント（講義）①なぜ食事をするのか②こころのしくみを説明 ③からだのしくみ（口腔から食道までのしくみ・摂食・嚥下運動）についての説明 ④治療食について説明 （演習）実際に食品を食べて摂食嚥下の5分類を理解する
23・24・25	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第2節心身の機能低下が食事に及ぼす影響 心身の機能低下が食事に及ぼす影響精神機能低下・身体機能低下の具体的内容を正しく理解する 食事動作に影響する要因の内容を学ぶ 全身的な機能低下の内容を学ぶ	教科書P156～P162プリント （講義）①精神機能の低下が食事に及ぼす影響を説明 ②身体機能の低下に及ぼす影響（加齢・病気・障害）の説明
26・27・28	第5章　食事に関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応 おもな身体機能について網羅的に正しく理解する 緊急性をともなう異常の具体的内容を1つづつ正しく理解する おもな症状について網羅的に正しく理解する	教科書P163～P169プリント （講義）①緊急性をともなう異常についての説明 ②症状（食欲不振・脱水・低栄養・摂食嚥下障害）について説明 （演習）①食事での観察ポイントについてグループで考え発表、捕捉説明
29	まとめ	第3章～第5章までのまとめ（質疑応答）
30	期末試験	期末試験
31・32	第6章　入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第1節入浴・清潔保持のしくみについて理解する	教科書P172～183プリント （講義）①なぜ入浴・清潔保持を行うのか（入浴の作用） ②清潔がもたらす効果③皮膚・発汗・皮膚の汚れのしくみ・除部の清潔についての説明 （演習）足浴・手浴を行いリラックス・清潔がもたらす効果を知る
33・34	第6章　入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第2節心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する	教科書P184～194プリント （講義）①精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ②皮膚機能の変化と影響・視覚機能の低下と影響・運動機能の低下と影響・高血圧・心疾患・呼吸器疾患がある場合など説明 （演習）皮膚の変化に合わせた入浴・清拭時の注意点
35・36	第6章　入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 第3節　変化の気づきと対応に責えて理解する ①入浴・清潔保持の前に確認する内容②清潔保持の機会に確認できる心身の状態を理解する）	教科書ｐ195～206 （講義）①入浴が身体に及ぼす負担 ②皮膚の状態観察・循環器・呼吸器・入浴、清潔に必要な観察ポイント・全身の状態を見る・ 脱水を予防する・温度変化の影響を小さくする ③医療職との連携ポイントについての説明 （演習）清潔保持の際の注意点と対応を考える
37・38・39	第7章排泄に関連したこころとからだのしくみ 第1節排泄のしくみを理解する（排泄に必要な行為・尿・便排出のしくみ・ 正常を理解することで、利用者の排泄状態が正常であるかを理解する）	教科書ｐ208～219プリント （講義）①なぜ排泄をするのか②排泄に関連したこころのしくみ ③尿・便排出のしくみ・人工膀胱・人工肛門ののしくみを説明する （演習）利用者の状態から考える排泄の問題とその原因をグループで考え、発表
40・41	第7章排泄に関連したこころとからだのしくみ 第2節心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①排泄障害の種類 ②排泄障害のタイプに応じた対象方法はどの様なものがあるか理解する ③排泄障害は適切な対応をとることにより改善の可能性があることを学ぶ	教科書P221～231プリント （講義）①認知症・ストレスが及ぼす影響 ②ADL・膀胱機能・消化器機能の低下に伴う障害を説明 （演習）便失禁の原因について考える
42・43	第7章排泄に関連したこころとからだのしくみ 第3節変化の気づきと対応（①排泄の観察ポイント②排泄の観察方法を理解する③排泄状態の観察、記録、報告の重要性を学ぶ	教科書P232～238プリント（講義）①排泄での観察ポイント②連携のポイントの説明
44・45	第8章休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第1節休息・睡眠のしくみ ①（休息・睡眠のしくみを学ぶ②良質な睡眠のための環境条件や生活習慣を学ぶ）	教科書P240～249プリント （講義）①なぜ睡眠をとるのか②睡眠のしくみ③睡眠の質を高めるについての説明 （演習）快適に眠るための寝室の工夫を話う
46・47	第8章休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第2節心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 ①（加齢が休息・睡眠に及ぼす影響②睡眠障害の種類と、それぞれの特徴について学ぶ	教科書P250～257プリント （講義）①加齢による睡眠の変化・心身の機能の変化が睡眠に及ぼす影響 ②睡眠障害③睡眠不足が及ぼす影響
48・49	第8章休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第3節変化に気づくためのポイント（①睡眠の観察ポイント・確認する方法について学ぶ）	教科書P258～261プリント （講義）①睡眠での観察・医療職との連携のポイント②緊急対応が必要な例についての説明
50・51	第9章人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第1節人生の最終段階に関する「死」の捉え方（①終末期の捉え方②看取りでの尊厳の保持の意味を学ぶ）	教科書P264～247プリント （講義）①死のとらえかた②看取りにかかわる人の価値観③終末期についての説明 （演習）講義に入る前に死についての考え・臨終に立ち会ったことなどを話し合う
52・53・54	第9章人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第2節「死」に対するこころの理解（①「死」に直面した時の人の心理状況を理解・こころの変化の受け止め方を学ぶ②「死」に向かうことを、利用者と家族が受け止められるようなケアの在り方について学ぶ	教科書P275～281プリント （講義）①「死」に対するこころの変化②「死」を受容する③家族が「死」を受容できるための支援④家族の負担軽減（演習）DVD鑑賞「死」について考える
55・56	第9章人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第3節終末期から危篤状態死後のからだの理解（①終末期から「死」までの身体機能の特徴について学ぶ②臨終期から死後のからだの変化を理解し、その対応について学ぶ）	教科書P282～290プリント （講義）①身体機能の特徴②臨終期の対応③死後のからだの変化④死後の連絡
57・58	第9章人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第4節終末期における医療職との連携（①終末期ケアにおける医療職の役割と介護福祉職の役割について学ぶ②終末期に想定される医療ニーズの高い状態に対して、適切なケアと連携の在り方について学ぶ	教科書P291～299プリント （講義）①呼吸困難の医療と介護の連携②疼痛緩和時の医療と介護の連携 ③他職種連携についての説明
59	まとめ	第６章～第９章までのまとめ（質疑応答）
60	学期末試験	学期末試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかり位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

科目名	就職実務				
担当教員	山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	就職とはなぜ重要であるか、なぜ就職する必要があるかと業種・業態で適用する職業人として基礎的なマナーを学ぶ。介護福祉士として、能力や労力を他人のために役立てるモチベーションをもち続けることの大切さを身につける。社会のルール・社会のマナーの重要性を身につける				
学習目標（到達目標）	介護福祉士として、自己表現でき能力が発揮できるような職場に勤務できるようにする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	勝つための就職ガイダンス				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ビジネスマナーについて	講義・演習
2	就職活動の心構え①	講義・演習
3	就職活動の心構え②	講義・演習
4	なぜ就職するのか①	講義・演習
5	なぜ就職するのか②	講義・演習
6	動機づけの徹底①	講義・演習
7	動機づけの徹底②	講義・演習
8	働く意義の理解①	講義・演習
9	働く意義の理解②	講義・演習
10	企業が求める人材①	講義・演習
11	企業が求める人材②	講義・演習
12	服装と身だしなみ①	講義・演習
13	服装と身だしなみ②	講義・演習
14	話し方の基本・言葉遣い・敬語の使い方①	講義・演習
15	話し方の基本・言葉遣い・敬語の使い方②	講義・演習
16	話し方の基本・言葉遣い・敬語の使い方③	講義・演習
17	就職活動の流れ・ルール・求職登録①	講義・演習
18	就職活動の流れ・ルール・求職登録②	講義・演習
19	就職活動の流れ①	講義・演習

20	就職活動の流れ②	講義・演習
21	就職活動のルールと諸注意①	講義・演習
22	就職活動のルールと諸注意②	講義・演習
23	就職の登録と校内模擬面接①	講義・演習
24	就職の登録と校内模擬面接②	講義・演習
25	就職の登録と校内模擬面接③	講義・演習
26	コミュニケーションと対人関係①	講義・演習
27	コミュニケーションと対人関係②	講義・演習
28	職場の人間関係①	講義・演習
29	職場の人間関係②	講義・演習
30	一年次後期の振り返り	講義・演習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験50％、課題、提出物、レポート４０％ 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。レポート・課題を全て提出できるようにしてください。評価に大きく反映します。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

長岡こども・医療・介護専門学校

科目名	介護実習Ⅰ－１				
担当教員	野川みどり・矢尾板美佳・山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ	5日
授業概要、目的、授業の進め方	施設の利用者とのコミュニケーションを第一にして、できるだけ利用者理解を図っていく。また、利用者の生活の場である介護施設はどのようなところであるか、施設の概況や職員の一般的役割について学ぶ。 実習期間中は、常に利用者との関わり・触れ合いを心がける。そのうえで、利用者が生活する介護施設がどのような場であるか、その役割や基本的な介護技術などを学ぶ。				
学習目標 （到達目標）	に） ２．利用者の生活を通して、個々の利用者が置かれた状態や心理的側面をできる限り理解する。（基本的ニーズの理解につなげる） ３．介護職員を中心とする職員の役割や勤務体制及び一日の流れについて理解する。 ４．自己の目標の設定と評価ができ、積極的な実習態度と健康管理能力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	施設ケアアセスメント表　領域選定表（医学書院）				

コマ		学習方法・準備学習・備考
1	施設実習	実習
2	施設実習	実習
3	施設実習	
4	施設実習	
5	施設実習	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実習先での評価80％実習記録１０％出席率10％成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	施設の担当者の方の指示に従い実習を行って下さい。実習を休んだ場合には必ず休んだ日数を他の日に行ってもらいます。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

長岡こども・医療・介護専門学校

科目名	介護実習Ⅰ－２				
担当教員	野川みどり・矢尾板美佳・山田沙耶香	実務授業の有無	○		
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ	10日
授業概要、目的、授業の進め方	高齢者、重度生活障害を有する利用者を対象に、障害レベルに応じて求められる介護技術の科学的根拠を理解し、基礎的技術を実践的に学ぶ。又、プロセスレコードを記入し、コミュニケーション能力を高める方法を取得する。 利用者への観察や関わり、コミュニケーションを第一にして利用者理解に努める。併せて、介護職員の役割について、観察や助言を受けながら実際に体験し学ぶ。				
学習目標（到達目標）	１．介護業務を通して利用者の障害の特性を理解し、適切なコミュニケーションがとれるようになる。 ２．介護技術の基本について実体験を通して学ぶとともに、毎日の介護業務の基本的な流れを把握する。 ３．自己目標の設定と評価ができる。 ４．積極的な実習態度と健康管理能力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	施設ケアアセスメント表　領域選定表（医学書院）				

コマ		学習方法・準備学習・備考
1	施設実習	実習
2	施設実習	実習
3	施設実習	実習
4	施設実習	実習
5	施設実習	実習
6	施設実習	実習
7	施設実習	実習
8	施設実習	実習
9	施設実習	実習
10	施設実習	実習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実習先での評価80％実習記録１０％出席率10％成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	施設の担当者の方の指示に従い実習を行って下さい。実習を休んだ場合には必ず休んだ日数を他の日に行ってもらいます。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

長岡こども・医療・介護専門学校

科目名	介護実習Ⅰ－3				
担当教員	野川みどり・矢尾板美佳・山田沙耶香	実務授業の有無	○		
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ	10日
授業概要、目的、授業の進め方	これまでの実習施設とは異なる介護施設における介護実習を体験することにより、別の視点から施設の運営や介護業務が行われていることを学び、新たな発見が見出せるようにする。また、利用者の家族とのかかわりや他の専門職との連携のあり方について考える。 コミュニケーションを通して、利用者の身体的・心理的な面を理解する。また、生活支援技術を見学し、簡単な援助を指導者の下に体験する。学内で学んだ知識、技術、態度等を具体的かつ実践的に学ぶ。 　また、他職種協働や関係機関との連携方法を学び、チームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。				
学習目標（到達目標）	2．新たな発見を見出して、これまでの実習体験と統合する。併せて、利用者の生活を理解し、より良い介護のあり方について考える機会とする。 3．多様な介護現場、多様な利用者の存在について知り、それぞれの個別性を理解する。 4．介護施設における医療など他職種との連携の重要性について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	施設ケアアセスメント表　領域選定表（医学書院）				

コマ		学習方法・準備学習・備考
1	施設実習	実習
2	施設実習	実習
3	施設実習	実習
4	施設実習	実習
5	施設実習	実習
6	施設実習	実習
7	施設実習	実習
8	施設実習	実習
9	施設実習	実習
10	施設実習	実習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実習先での評価80％実習記録１０％出席率10％成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	施設の担当者の方の指示に従い実習を行って下さい。実習を休んだ場合には必ず休んだ日数を他の日に行ってもらいます。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

長岡こども・医療・介護専門学校

科目名	介護実習Ⅰ－２				
担当教員	野川みどり・矢尾板美佳・山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ	10日
授業概要、目的、授業の進め方	これまでの介護実習Ⅰ-1～3を通して体験し、学んできたことを振り返り、介護実習Ⅰの総まとめをこの実習で行う。これまでの介護実習で不十分だったこと、疑問が残ったこと等の反省に立ち、新たな課題を捉えなおしてこの実習に臨む。さらに、今後の介護実習Ⅱに繋がるよう、1人の方のアセスメントを中心に学ぶ。 これまで体験してきた多様な介護現場における実習を踏まえて、まとめの実習とする。学ぶべき中心的な課題として、様々な利用者、家族とのコミュニケーションを大切にして利用者が抱える生活上のニーズについて個別理解が出来るようにする。その上で、基本的な介護技術を確認し、身に付けること。医療などの他職種との連携・協働の重要性を学ぶ。更に、利用者の施設における生活の質を高める上で、どのような運営上の工夫がなされているか等を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	１．これまで実践してきた介護実習の総まとめとして、残された自分の課題を取り上げ、出来る限りその課題が達成できるように積極的に実習に取り組む。 ２．次に予定される『介護実習Ⅱ』に繋げられるような意識で実習を行うよう努める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	施設ケアアセスメント表　領域選定表（医学書院）				

コマ		学習方法・準備学習・備考
1	施設実習	実習
2	施設実習	実習
3	施設実習	実習
4	施設実習	実習
5	施設実習	実習
6	施設実習	実習
7	施設実習	実習
8	施設実習	実習
9	施設実習	実習
10	施設実習	実習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実習先での評価80％実習記録１０％出席率10％成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	施設の担当者の方の指示に従い実習を行って下さい。実習を休んだ場合には必ず休んだ日数を他の日に行ってもらいます。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

科目名	社会の理解Ⅱ				
担当教員	山田　沙耶香	実務授業の有無	○		
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	介護業務に携わるうえで、わが国の社会状況や生活の現状について学ぶとともに、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、および社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身に着ける事を目的とした科目、演習グループワークを加えながら自らが学べるように進めていく				
学習目標（到達目標）	①個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えることができる ②対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する ③日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する ④高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基本的な知識を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	介護福祉士養成講座編集：最新介護福祉士養成講座２：社会と制度の理解：中央法規				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	高齢者保健福祉と介護保険制度　1）高齢者保健福祉の動向	教科書・プリント
2	高齢者保健福祉と介護保険制度　1）高齢者保健福祉の動向	教科書・プリント
3	高齢者保健福祉と介護保険制度　2）高齢者保健福祉に関する法体系	教科書・プリント
4	高齢者保健福祉と介護保険制度　2）高齢者保健福祉に関する法体系	教科書・プリント
5	高齢者保健福祉と介護保険制度　3）介護保険制度	教科書・プリント
6	高齢者保健福祉と介護保険制度　3）介護保険制度	教科書・プリント
7	高齢者保健福祉と介護保険制度　3）介護保険制度	教科書・プリント・演習
8	高齢者保健福祉と介護保険制度　3）介護保険制度	教科書・プリント・演習
9	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　1）障害者保健福祉の動向	教科書・プリント
10	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　1）障害者保健福祉の動向	教科書・プリント
11	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　2）障害者保健福祉福祉の関連する法体系	教科書・プリント
12	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　2）障害者保健福祉福祉の関連する法体系	教科書・プリント
13	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　3）障害者総合支援制度	教科書・プリント
14	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　3）障害者総合支援制度	教科書・プリント
15	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　3）障害者総合支援制度	教科書・プリント
16	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　3）障害者総合支援制度	教科書・プリント
17	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　3）障害者総合支援制度	教科書・プリント・演習
18	障害者保健福祉と障害者総合支援制度　3）障害者総合支援制度	教科書・プリント・演習
19	介護実践に関する諸制度　1）個人の権利を守る制度・施策	教科書・プリント
20	介護実践に関する諸制度　1）個人の権利を守る制度・施策	教科書・プリント
21	介護実践に関する諸制度　2）保健医療に関する制度・施策	教科書・プリント
22	介護実践に関する諸制度　2）保健医療に関する制度・施策	教科書・プリント
23	介護実践に関する諸制度　3）貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策	教科書・プリント
24	介護実践に関する諸制度　3）貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策	教科書・プリント
25	介護実践に関する諸制度　4）地域生活を支援する制度・施策	教科書・プリント
26	介護実践に関する諸制度　4）地域生活を支援する制度・施策	教科書・プリント
27	介護実践に関する諸制度　4）地域生活を支援する制度・施策	教科書・プリント・演習
28	介護実践に関する諸制度　4）地域生活を支援する制度・施策	教科書・プリント・演習
29	まとめ	教科書・プリント
30	試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題・提出物　30%、出席率・学習意欲10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	生活支援技術Ⅰ（1）				
担当教員	矢尾板　美佳		実務授業の有無	講義・演習	
対象学科	介護福祉	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	4	コマ数	60コマ
授業概要、目的、授業の進め方	・介護給付請求事務所及び給付管理事務の専門家としての知識と技術を習得する。 ・居宅介護支援事業所や居宅サービス事業所及び介護保険施設等において即戦力として働ける実務レベルの実力を身につけるように学習を進める				
学習目標（到達目標）	認定試験に合格して介護事務管理士の資格を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	（株）ソラスト発行 『介護保険制度のしくみ』・『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』・『学習サポートブック』使用				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	介護保険制度の仕組みについて学ぶ	テキスト『介護保険制度のしくみ』使用
2	要介護申請からサービス提供までの流れについて学ぶ	テキスト『介護保険制度のしくみ』使用
3	サービスの種類と内容について学ぶ	テキスト『介護保険制度のしくみ』使用
4	サービス提供期間（居宅・支援・施設・地域密着型）について学ぶ	テキスト『介護保険制度のしくみ』使用
5	給付管理業務とケアマネージャーの業務について学ぶ	テキスト『介護保険制度のしくみ』使用
6	支給限度額と請求・支払いについて学ぶ	テキスト『介護保険制度のしくみ』使用
7・8	居宅サービス（訪問介護費・訪問入浴介護費・訪問看護費）の算定	テキスト『介護報酬の算定』使用
9～11	居宅サービス （訪問介護費・訪問入浴介護費・訪問看護費）のレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
12・13	居宅サービス（訪問リハ費・通所介護費・通所リハ費）の算定	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
14・15	居宅サービス（訪問リハ費・通所介護費・通所リハ費）のレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
16・17	居宅サービス（短期入所生活介護費・短期入所療養介護費）の算定	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
18・19	居宅サービス（短期入所生活介護費・短期入所療養介護費）のレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
20・21	居宅サービス（特定施設入居者生活介護費・福祉用具貸与費）の算定	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
22・23	居宅サービス（特定施設入居者生活介護費・福祉用具貸与費）のレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
24・25	居宅サービス（居宅療養管理指導費・居宅介護支援費）の算定	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
26・27	居宅サービス（居宅療養管理指導費・居宅介護支援費）のレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
28・29	施設サービス（介護福祉施設）の算定	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
30・31	施設サービス（介護福祉施設）のレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
32・33	施設サービス（介護保健施設）の算定	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
34～36	施設サービス（介護保健施設）のレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
37・38	施設サービス（介護療養施設）の算定	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
39～41	施設サービス（介護療養施設）のレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
42～46	地域密着型サービスの算定とレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
47～49	介護予防サービス・地域密着型介護予防サービス 介護予防支援の算定とレセプト作成	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
50	他制度（医療保険・公費負担医療）との関係、主治医意見書について学ぶ	テキスト『介護報酬の算定』 『介護レセプトの書き方』使用
51～60	直前対策	テキスト全て使用 試験を想定し、模擬問題を解く

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出欠席、授業態度等総合的に評価 定期試験40%、実技試験25%、出席率・学習意欲10%	『介護事務管理士試験』合格を目指す、強いこころと姿勢があることが望ましい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	介護の基本Ⅱ（2）				
担当教員	山田　沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	60
授業概要、目的、授業の進め方	・介護は生活を支援し、利用者の希望する生活を実現することを目的とする。 その仕事はチームケアであり、常に安全の確保が求められる。 多職種協働における介護福祉士の役割を理解し、専門職としての知識と技術を習得する。 ・介護福祉士の専門性と介護従事者の倫理を考察する。 さらに、利用者、高齢者の生活について、安全の確保とリスクマネジメントについて考察し、 専門職としての介護観を確立する				
学習目標（到達目標）	1．介護実践における他職種協働と連携を理解する。 2．介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解する。 3．介護従事者の職業倫理を修得し、利用者の人権をいつ、どんな時でも擁護できる専門職としての介護観が持てる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	中央法規出版『介護の基本Ⅱ』、配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	生活経営と管理① 家庭生活・ライフスタイル・家族関係の理解	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
3・4	生活経営と管理② 要介護者の生活経営の課題・生活管理の課題	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
5・6	介護従事者の倫理①基本的視点	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
7・8	介護従事者の倫理②施設利用者の人権と介護	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
9・10	介護従事者の倫理③身体拘束の問題	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
11・12	介護従事者の倫理④プライバシーの保護	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
13・14	介護従事者の倫理⑤在宅利用者の人権と介護	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
15・16	介護従事者の倫理⑥高齢者虐待	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
17・18	介護従事者の倫理⑦個人情報保護	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
19・20	介護における安全の確保とリスクマネジメント① 基本的視点	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
21・22	介護における安全の確保とリスクマネジメント② 施設における安全の確保	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
23・24	介護における安全の確保とリスクマネジメント③ 在宅における安全の確保	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
25・26	介護における安全の確保とリスクマネジメント④ 地域における安全の確保	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
27・28	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤ 地域における安全の確保（消費者被害）	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
29	前期まとめ	テイスト、配布資料使用
30	前期試験	
31・32	介護従事者の安全① 基本的視点	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
33・34	介護従事者の安全② 心の健康管理	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
35・36	介護従事者の安全③ 腰痛予防	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
37・38	介護従事者の安全④ 感染予防	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
39・40	介護従事者の安全⑤ 労働安全	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
41・42	地域の福祉の現状	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
43・44	自然保護と福祉の課題	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
45～48	地域の活性化と福祉	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
49・50	2年間の学びの振り返り	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
51・52	「介護福祉士観」のまとめ① 記録	テキスト、参考資料使用 グループに分かれ作成
53・54	「介護福祉士観」のまとめ② 発表	テキスト、参考資料使用 グループワークにて発表
55・56	地域の福祉の課題と介護福祉士の役割の考察	テキスト、参考資料使用 グループワークを行い知識を深める
57	後期のまとめ	テキスト、配布資料使用
58	試験	
59・60	総括	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	生活支援技術Ⅲ（1）				
担当教員	矢尾板　美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	60
授業概要、目的、授業の進め方	・機能低下のある方の生活支援ニーズを把握し自立支援における介護のあり方における安全な介護の基本を習得する。 ・現在までの学習を踏まえて、機能低下のある方の自立に向けた生活支援方法をグループワークや演習を通して学ぶ。				
学習目標（到達目標）	1．機能低下のある方の自立へ向けた、生活支援方法を習得する。 2．安全に配慮すると共に、プライバシーを確保し、人間の尊厳を重視した対応ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト『生活支援技術Ⅱ』（中央法規出版） 配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1～4	オリエンテーション 生活支援技術Ⅰの復習	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 1年時の振り返りを行う
5～8	機能低下のある方の自立に向けた 生活支援・身じたくの介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 生活支援・身じたくの介護技術を習得する
9～12	機能低下のある方の自立に向けた 身じたくの介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 身じたくの介護技術を習得する
13～16	機能低下のある方の自立に向けた 移動の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 移動の介護技術を習得する
17～20	機能低下のある方の自立に向けた 移乗の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 移乗の介護技術を習得する
21～28	機能低下のある方の自立に向けた 食事の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 食事の介護技術を習得する
29～36	機能低下のある方の自立に向けた 入浴、清潔の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 入浴、清潔の介護技術を習得する
37～44	機能低下のある方の自立に向けた入浴 排泄の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 排泄の介護技術を習得する
45～52	機能低下のある方の自立に向けた睡眠の介護	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 就寝時の介護技術を習得する
53～56	終末期の介護① グリーフケア	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 身じたくの介護技術を習得する
57～58	終末期の介護② 臨終期の対応	テキスト『生活支援技術Ⅱ』使用 身じたくの介護技術を習得する
59	まとめ	
60	期末試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験60％、課題・提出物　30％、出席率・学習意欲10％ 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	生活支援技術Ⅲ（2）				
担当教員	山田　沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	・障害者の生活支援ニーズを把握し、自立支援における介護のあり方について安全な介護の基本を習得する。 ・要介護者の心身機能を理解し、グループワークやレポート、演習等を通して介護実践における考え方や視点を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	1．個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援を習得する。 2．ICFの視点に基づいて、それぞれの介護ニーズについての意義と目的が理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』（中央法規出版） 配布資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	オリエンテーション 障害児・者の生活支援の基本	テキスト『生活支援技術Ⅲ』使用 グループワークにて知識を深める
3・4	運動機能障害のある人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
5・6	内部障害のある人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
7・8	視覚障害のある人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
9・10	聴覚・言葉に障害を認める人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
11～14	発達障害のある人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
15・16	精神障害のある人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
17～20	高次脳機能障害を認める人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
21～24	認知症の人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
25～28	難病および全介助を要する人の生活支援技術	テキスト『生活支援技術Ⅲ』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
29	まとめ	テキスト『生活支援技術Ⅲ』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
30	期末試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実技試験60％、課題・提出物　30％、出席率・学習意欲10％ 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	介護福祉現場実務経験17年（介護福祉士）

科目名	介護過程Ⅱ				
担当教員	矢尾板　美佳		実務授業の有無	講義・演習	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	4	コマ数	60コマ
授業概要、目的、授業の進め方	・介護過程の展開を演習し、介護経過を立案し適切な介護サービスを提供できる能力を習得する。 ・事例を通し、個々の介護ニーズの捉え方を学ぶ。さらにアセスメント、計画書の作成の演習を行う。 また、介護実習Ⅰの体験を踏まえ、介護過程の実践的展開を理解する。 利用者の自立（自律）に向けた、利用者の状態・状況に応じた介護過程の理論を確認する。				
学習目標（到達目標）	1．今まで学んだ知識・技術は、介護過程の中で個々の能力に合わせて応用・発展・活用するものであることを理解できる。 2．把握すべき事実の内容を理解し、達成すべき課題にむけて必要な介護実践の内容を計画できるようになる。 3．介護を必要とする人が生活する環境を考慮し、その場所、時に応じて最善の支援ができる介護過程の展開が実施できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト『介護過程』（メジカルフレンド社） 配布資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	介護過程（Ⅰ）の振り返り	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
3・4	その人が生きてきた時代と生活の理解	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
5・6	介護過程の実践的展開（課題の優先順位決定）	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
7・8	介護計画の意義	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
9・10	生活支援の課題・目標のとらえ方	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
11・12	援助方法の立案	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
13・14	介護計画に記入すべき要素	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
15～20	事例演習	テキスト『介護過程』・事例演習を使用し 個人・グループワークにて知識を深める
21・22	介護過程における「実施」の意義と実施時の留意事項	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
23・24	実施記録の書き方	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
25～30	演習	テキスト『介護過程』・演習課題を使用し 個人・グループワークにて知識を深める
31・32	社会資源の活用について	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
33・34	介護過程の実践的展開（評価と修正）	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
35・36	評価の意義と介護過程における位置づけ	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
37・38	評価作業の手順	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
39・40	評価記録の書き方	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
41～44	演習	テキスト『介護過程』・演習課題を使用し 個人・グループワークにて知識を深める
45・46	介護過程に必要な記録類	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
47・48	評価後の介護計画の修正	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
49～52	演習	テキスト『介護過程』・演習課題を使用し 個人・グループワークにて知識を深める
53・54	介護過程とチームアプローチ	テキスト『介護過程』使用 個人・グループワークにて知識を深める
55～59	介護過程実践の理解と介護Ⅱ実習の課題	テキスト『介護過程』使用、実習Ⅱを現実化し 個人・グループワークにて知識を深める
60	試験	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出欠席、授業態度等総合的に評価 定期試験40%、実技試験25%、出席率・学習意欲10%	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	介護過程Ⅲ				
担当教員	矢尾板　美佳		実務授業の有無	講義・演習	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	4	コマ数	60コマ
授業概要、目的、授業の進め方	・他の科目で学んだ知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、他職種と連携し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を習得する。 ・介護実習Ⅱの体験を踏まえ、介護過程の実践的展開を理解する。利用者の自立（律）にむけた、利用者の状態・状況に応じた介護過程の理論を確認する。				
学習目標（到達目標）	1．利用者の状態・状況に応じた、自立（律）に向けた介護過程の展開の実践ができる。 2．他職種・地域との連携を図り、チームケアを実践できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト『介護過程』（メジカルフレンド社） 中央法規またはメジカルフレンド社のテキスト随時使用 配布資料				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	介護過程（Ⅱ）の振り返り	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
3・4	ケアマネジメント（介護保険制度）と介護過程の関係	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
5・6	介護過程の実際	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
7・8	認知症	テキスト『介護過程』『認知症の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
9～12	内部障害	テキスト『介護過程』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
13～16	コミュニケーション障害	テキスト『介護過程』『障害の理解』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
17～20	在宅	テキスト『介護過程』『介護の基本Ⅱ使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
15～20	事例演習	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて事例を使用し、知識を深める
21～24	目標志向的プロセスとしての介護過程	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
25・26	介護過程の展開	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
27・28	介護過程におけるチームアプローチの実際	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
29・30	チームケアにおける介護福祉士の役割	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
31～34	介護専門職と医療職の連携	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
35・36	ケースカンファレンス	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
37・38	介護過程とケアプラン	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
39・40	サービス担当者会議	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
41～44	介護職の守秘義務と倫理	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
45・46	介護過程における説明と同意	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
47～50	介護過程における家族の役割	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
51～54	終末期の介護過程	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
55～57	介護過程と自己覚知	テキスト『介護過程』使用 グループワークにて知識を深める
58	まとめ	テキスト『介護過程』、配布資料使用 グループワークにて例題を使用し、知識を深める
59	試験	
60	総括	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出欠席、授業態度等総合的に評価 定期試験40%、実技試験25%、出席率・学習意欲10%	グループワークを主として授業を進めたいと思っています。自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	介護総合演習③				
担当教員	矢尾板美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	介護実習Ⅰにおける学びを基礎として、介護実習Ⅱにおいて、介護過程の展開を実践でき知識、技術の統合化を図り、自己の課題を明確化する。個別ケアにおける介護計画の立案に関する基本的技術を習得するため、介護過程の授業との連携を通した演習を行う				
学習目標（到達目標）	①事前に実習施設についての理解を深め、各授業で学んだ知識と技術を統合し介護実践につなげる ②実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけることができる ③自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う ④質の高い介護実践、エビデンスの構築につながる実践研究の意義、方法について理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新介護福祉全書：介護総合演習：メディカルフレンド社				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	介護実習Ⅰの振り返り①	演習
2	介護実習Ⅰの振り返り②	演習
3	介護実習Ⅰの報告会①	演習
4	介護実習Ⅰの報告会②	演習
5	介護実習Ⅲ（訪問介護）の実習計画と立案①	演習
6	介護実習Ⅲ（訪問介護）の実習計画と立案②	演習
7	レクリエーション活動の計画①	演習
8	レクリエーション活動の計画②	演習
9	レクリエーション活動の実践①	演習
10	レクリエーション活動の実践②	演習
11	個別介護計画と目的に応じた記録の書き方①	演習
12	個別介護計画と目的に応じた記録の書き方②	演習
13	個別介護計画（施設）①	演習
14	個別介護計画（施設）②	演習
15	個別介護計画（施設）③	演習
16	個別介護計画（施設）④	演習
17	個別介護計画（居宅）①	演習
18	個別介護計画（居宅）②	演習
19	カンファレンスの実践①	演習
20	カンファレンスの実践②	演習
21	カンファレンスの実践③	演習
22	カンファレンスの実践④	演習
23	介護実習Ⅱの目的・目標の確認①	演習
24	介護実習Ⅱの目的・目標の確認②	演習
25	介護実習Ⅱの実習計画と立案①	演習
26	介護実習Ⅱの実習計画と立案②	演習
27	介護実習Ⅱの実習計画と立案③	演習
28	介護実習Ⅱの実習計画と立案④	演習
29	まとめ	まとめ
30	まとめ	まとめ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
報告会内容60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

科目名	介護総合演習④				
担当教員	矢尾板美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえ、介護福祉士として職業倫理、社会的役割、使命などの自己の福祉観を深めるとともに、人間の尊厳を支える介護の実践者としての自己覚知ができる。介護実習全体を通しての総括として、各学生が卒業実習報告をまとめ、その過程を通し、介護福祉士としての自覚を高める				
学習目標（到達目標）	①事前に実習施設についての理解を深め、各授業で学んだ知識と技術を統合し介護実践につなげる ②実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけることができる ③自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う ④質の高い介護実践、エビデンスの構築につながる実践研究の意義、方法について理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新介護福祉全書：介護総合演習：メディカルフレンド社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	介護福祉士としての福祉観・理念の構築①	演習
2	介護福祉士としての福祉観・理念の構築②	演習
3	事例研究の意義①	演習
4	事例研究の意義②	演習
5	事例研究のテーマの設定①	演習
6	事例研究のテーマの設定②	演習
7	介護実習Ⅱの振り返り（目標達成度評価）①	演習
8	介護実習Ⅱの振り返り（目標達成度評価）②	演習
9	個別介護計画の評価①	演習
10	個別介護計画の評価②	演習
11	事例研究の考察①	演習
12	事例研究の考察②	演習
13	事例研究のまとめ①	演習
14	事例研究のまとめ②	演習
15	事例研究発表会①	演習
16	事例研究発表会②	演習
17	事例研究報告書の作成①	演習
18	事例研究報告書の作成②	演習
19	事例研究報告書の作成③	演習
20	事例研究報告書の作成④	演習
21	事例研究報告書の作成⑤	演習
22	事例研究報告書の作成⑥	演習
23	事例研究報告書の作成⑦	演習
24	事例研究報告書の作成⑧	演習
25	介護実習からみた自己の課題①	演習
26	介護実習からみた自己の課題②	演習
27	2年間の振り返り①	演習
28	2年間の振り返り②	演習
29	まとめ	まとめ
30	まとめ	まとめ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
報告会内容60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務

長岡こども・医療・介護専門学校

科目名	介護実習Ⅱ				
担当教員	野川みどり・矢尾板美佳・山田沙耶香		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ	
授業概要、目的、授業の進め方	居宅における利用者の生活状況を知り、介護ニーズを把握してそれに応じた介護の実践を習得する。 また地域福祉の一端を担うホームヘルパーの等の機能とその役割や、多職種との連携を理解、地域における生活支援の実践について学ぶ 2日間の訪問介護実習において、居宅における利用者の個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習をする。				
学習目標 （到達目標）	２．居宅における介護ニーズを理解する。 ３．ホームヘルパーの業務、機能と地域福祉サービス、多職種との連携を理解する。 ４．利用者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解、地域における生活支援を実践的に学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	施設ケアアセスメント表　領域選定表（医学書院）				

コマ		学習方法・準備学習・備考
1	施設実習	実習
2	施設実習	実習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実習先での評価80％実習記録１０％出席率10％成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	施設の担当者の方の指示に従い実習を行って下さい。実習を休んだ場合には必ず休んだ日数を他の日に行ってもらいます。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験・介護福祉士として２０年経験

長岡こども・医療・介護専門学校

科目名	介護実習Ⅱ				
担当教員	野川みどり・矢尾板美佳・山田沙耶香	実務授業の有無	○		
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数		コマ	
授業概要、目的、授業の進め方	個別ケアを実践する為に、ICFの視点から個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画の作成－実施－評価といった介護過程を展開し、他科目で学んだ知識や技術を統合して具体的サービスの提供の基本となる実践力を習得する				
学習目標（到達目標）	1． 施設の役割や機能を理解したうえで、利用者・家族及び地域との関わりによって施設が運営されていることを理解する。 2． 利用者の特性等を踏まえた個別理解ができ、ニーズを捉えることができるようにする。 3． ケアマネジメント手法により、ICFの視点を踏まえた個別介護計画が立案できるようにする。 4． 施設内の他の専門職や職員、及び地域の関係機関等との連携の重要性を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	施設ケアアセスメント表　領域選定表（医学書院）				

コマ		学習方法・準備学習・備考
1	施設実習	実習
2	施設実習	実習
3	施設実習	実習
4	施設実習	実習
5	施設実習	実習
6	施設実習	実習
7	施設実習	実習
8	施設実習	実習
9	施設実習	実習
10	施設実習	実習
11	施設実習	実習
12	施設実習	実習
13	施設実習	実習
14	施設実習	実習
15	施設実習	実習
16	施設実習	実習
17	施設実習	実習
18	施設実習	実習
19	施設実習	実習
20	施設実習	実習
21	施設実習	実習
22	施設実習	実習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
実習先での評価80%実習記録１０%出席率10%成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	施設の担当者の方の指示に従い実習を行って下さい。実習を休んだ場合には必ず休んだ日数を他の日に行ってもらいます。

実務経験教員の経歴	看護師として医療現場・介護福祉現場で３０年経験

科目名	障害の理解Ⅱ				
担当教員	野川　みどり	実務授業の有無	○		
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		コマ数	30
授業概要、目的、授業の進め方	障害のある人に、その人に合った個別で安全な介護を提供するために、障害のある人への介護の基本的視点や個人支援、家族支援、多職種との連携について学ぶ、授業の進め方として、ＤＶＤ鑑賞や演習を行い自ら学習が行えるようにする。				
学習目標（到達目標）	①内部障害、難病についての医学的理解、生活の理解②障害のある人への支援、多職種連携について理解、自分のことばで説明ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①介護福祉士養成講座編集委員会編：新介護福祉士養成講座：１３障害の理解　中央法規　2015 ②見て覚える介護福祉士国試ナビ2018				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1・2	第4章障害のある人の生活の理解Ⅲ 第1節内部障害のある人の生活①内部障害とは②心臓機能障害の医学的理解 ③生活の理解・介護の留意点を学ぶ	（講義）P156～162プリント
3・4	第4章障害のある人の生活の理解Ⅲ 第１節内部障害のある人の生活 ①腎機能障害の医学的理解②生活の理解・介護の留意点を学ぶ	（講義）P162～170プリント
5・6	第4章障害のある人の生活の理解Ⅲ 第１節内部障害のある人の生活 ①呼吸機能障害の医学的理解②生活の理解・介護の留意点を学ぶ	（講義）P171～177プリント
7・8	第4章障害のある人の生活の理解Ⅲ 第１節内部障害のある人の生活 ①膀胱・直腸機能障害の医学的理解②生活の理解・介護の留意点を学ぶ	（講義）P177～186プリント
9・10	第4章障害のある人の生活の理解Ⅲ 第１節内部障害のある人の生活 ①ヒト免疫不全ウイルスによる免疫障害の医学的理解 ②生活の理解・介護の留意点を学ぶ	（講義）P186～192プリント
11・12	第4章障害のある人の生活の理解Ⅲ 第１節内部障害のある人の生活 ①肝臓機能障害の医学的理解②生活の理解・介護の留意点を学ぶ	（講義）P193～198プリント
13・14	第4章障害のある人の生活の理解Ⅲ 第2節難病のある人の生活①難病とは何か②主な難病の特徴	（演習）主要な難病の特徴について調べ発表をする
15・16	第4章障害のある人の生活の理解Ⅲ 第3節難病のある人の生活	脊髄小脳変性症関連のDVD鑑賞・感想・発表
17・18	第５章障害のある人に対する介護第１節障害のある人に対する介護の基本的視点	（講義）Ｐ214～225プリント（演習）エンパワメントを支持していく「介護」グループで話う
19・20	第５章障害のある人に対する介護第２節基本的視点に基づいた個別支援	（講義）Ｐ226～240プリント
21・22	第５章障害のある人に対する介護第３節社会資源の利用と開発	（講義）Ｐ241～254プリント
23・24	第6章家族への支援第1節家族への支援とは何か	（講義）Ｐ260～268プリント（演習）障害のある人の家族を支えるために必要なこと話し合う
25・26	第6章家族への支援第2節家族の状態の把握と介護負担の軽減	（講義）Ｐ270～279プリント
27・28	第7章連携と協働 1節保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携第2節地域におけるサポート体	（講義）Ｐ284～305プリント
29	まとめ	振り返り・まとめ
30	期末試験	期末試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、Ａ（80点以上）・Ｂ（65点以上）・Ｃ（50点以上）・Ｄ（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。

実務経験教員の経歴	看護師として25年実務経験

科目名	喀痰吸引及び経管栄養の基本				
担当教員	野川みどり		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	50
授業概要、目的、授業の進め方	医行為である喀痰吸引と経管栄養の目的や重要性、危険性について学び、いざという時の急変時の対応について学ぶ。喀痰吸引と経管栄養にはさまざまな種類や手順があり、対象者一人ひとりの状態に合った個別な種類や手法が必要であることを学ぶ。また急変時の対応についても学ぶ、介護に現場で自信を持ってこれらの行為を実現するための教養を身につける				
学習目標（到達目標）	①社会福祉士及び介護福祉士法の一部を改正する法律の概要を理解できる ②喀痰吸引の目的・手法・必要性の判断・理想的な結果が理解できる ③経管栄養の目的・手法・必要性の判断・理想的な結果が理解できる ④急変時の対応が理解できる ⑤喀痰吸引と経管栄養の関係性について理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新介護福祉全書：医療的ケア：　ネディカルフレンド社				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	個人の尊厳と自立、医療の倫理	講義・プリント
2	利用者や家族の気持ちの理解、医行為に関係する法律	講義・プリント・振り返り
3	保健医療に関する制度	講義・プリント・振り返り
4	チーム医療と介護職員との連携、安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性	講義・プリント・振り返り
5	リスクマネジメントの考え方と枠組み、ヒヤリハット・アクシデント報告	講義・プリント・振り返り
6	救急蘇生①	講義・プリント・振り返り
7	救急蘇生②	講義・プリント・振り返り
8	感染予防、職員の感染予防	講義・プリント・振り返り
9	療養環境の清潔、消毒法、滅菌と消毒	講義・プリント・振り返り
10	身体・精神の健康	講義・プリント・振り返り
11	健康状態を知る項目（意欲、顔貌、顔色、食欲、行動ほか）	講義・プリント・振り返り
12	バイタルサイン、急変状態について	講義・プリント・振り返り
13	呼吸のしくみとはたらき	講義・プリント・振り返り
14	いつもと違う呼吸状態	講義・プリント・振り返り
15	喀痰吸引とは	講義・プリント・振り返り
16	人口呼吸器と吸引①	講義・プリント・振り返り
17	人口呼吸器と吸引②	講義・プリント・振り返り
18	子どもの吸引について、呼吸器系の感染と予防	講義・プリント・振り返り

19	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	講義・プリント・振り返り
20	呼吸器系の感染と予防	講義・プリント・振り返り
21	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認	講義・プリント・振り返り
22	急変・事故発生時の対応と事前対策（喀痰吸引時）①	講義・プリント・振り返り
23	急変・事故発生時の対応と事前対策（喀痰吸引時）②	講義・プリント・振り返り
24	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	講義・プリント・振り返り
25	吸引の技術と留意点①	講義・プリント・振り返り
26	吸引の技術と留意点②	講義・プリント・振り返り
27	吸引の技術と留意点③	講義・プリント・振り返り
28	吸引の技術と留意点④	講義・プリント・振り返り
29	吸引の技術と留意点⑤	講義・プリント・振り返り
30	喀痰吸引にともなうケア	講義・プリント・振り返り
31	報告および記録	講義・プリント・振り返り
32	消火器系のしくみとはたらき	講義・プリント・振り返り
33	消化・吸収とよくある消火器の症状	講義・プリント・振り返り
34	経管栄養とは	講義・プリント・振り返り
35	注入する内容に関する知識	講義・プリント・振り返り
36	経管栄養実施上の留意点	講義・プリント・振り返り
37	経管栄養に関係する感染と予防	講義・プリント・振り返り
38	子どもの経管栄養について、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応・説明と同意	講義・プリント・振り返り
39	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	講義・プリント・振り返り
40	急変・事故発生時の対応と事前対策（経管栄養時）	講義・プリント・振り返り
41	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	講義・プリント・振り返り
42	経管栄養の技術と留意点①	講義・プリント・振り返り
43	経管栄養の技術と留意点②	講義・プリント・振り返り
44	経管栄養の技術と留意点③	講義・プリント・振り返り
45	経管栄養の技術と留意点④	講義・プリント・振り返り
46	経管栄養の技術と留意点⑤	講義・プリント・振り返り
47	経管栄養に必要なケア、報告および記録	講義・プリント・振り返り

48	まとめ①	まとめ
49	まとめ②	まとめ
50	筆記試験	筆記試験
評価方法・成績評価基準		履修上の注意
定期試験60%、課題、提出物、レポート30% 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。		自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識・技術を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。
実務経験教員の経歴	看護師として30年医療現場・介護現場で関わってきた	

科目名	喀痰吸引及び経管栄養の演習				
担当教員	野川みどり		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数		コマ数	20
授業概要、目的、授業の進め方	喀痰吸引と経管栄養の講義を踏まえ、介護の現場で自信を持ってこれらの行為をを実践する田茂の技術を学ぶ。吸引用人体型シュミレーター経管栄養ノシュミレーター器具セット等を用いて、吸引や経管栄養を施行する前・中・後のの観察点や手法を実践する				
学習目標（到達目標）	①喀痰吸引の手法が実践できる②経管栄養の手法が実践できる③急変時に迅速で適切な対応ができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	最新介護福祉全書：医療的ケア：　ネディカルフレンド社				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	喀痰吸引（口腔内吸引）①	演習実技
2	喀痰吸引（口腔内吸引）②	演習実技
3	喀痰吸引（鼻腔内吸引）①	演習実技
4	喀痰吸引（鼻腔内吸引）②	演習実技
5	喀痰吸引（気管カニューレ内部）①	演習実技
6	喀痰吸引（気管カニューレ内部）②	演習実技
7	喀痰吸引（気管カニューレ内部）③	演習実技
8	経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）①	演習実技
9	経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）②	演習実技
10	経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）③	演習実技
11	経管栄養（経鼻）①	演習実技
12	経管栄養（経鼻）②	演習実技
13	救急蘇生法①	演習実技
14	救急蘇生法②	演習実技
15	救急蘇生法③	演習実技
16	実技試験①	実技試験
17	実技試験②	実技試験
18	実技試験③	実技試験
19	実技試験④	実技試験
20	実技試験⑤	実技試験

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
授業態度・出席率10%・吸引・経管栄養実技試験結果90% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	全ての実技５回以上の合格が必要です

実務経験教員の経歴	看護師として30年医療現場・介護現場で関わってきた

科目名	就職実務				
担当教員	矢尾板美佳		実務授業の有無	○	
対象学科	介護福祉	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必須	単位数		コマ数	100
授業概要、目的、授業の進め方	就職とはなぜ重要であるか、なぜ就職する必要があるかと業種・業態で適用する職業人として基礎的なマナーを学ぶ。介護福祉士として、能力や労力を他人のために役立てるモチベーションをもち続けることの大切さを身につける。社会のルール・社会のマナーの重要性を身につける				
学習目標（到達目標）	介護福祉士として、自己表現でき能力が発揮できるような職場に勤務できるようにする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	勝つための就職ガイダンス				

コマ	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	仕事に関する基本姿勢①	講義・演習
2	仕事に関する基本姿勢②	講義・演習
3	仕事に関する基本姿勢③	講義・演習
4	仕事に関する基本姿勢④	講義・演習
5	社会のルールと会社のルール①	講義・演習
6	社会のルールと会社のルール②	講義・演習
7	自分自身を知る①	講義・演習
8	自分自身を知る②	講義・演習
9	ライフスタイルを考える①	講義・演習
10	ライフスタイルを考える②	講義・演習
11	自己分析で考えるポイント①	講義・演習
12	自己分析で考えるポイント②	講義・演習
13	自己ＰＲの作り方①	講義・演習
14	自己ＰＲの作り方②	講義・演習
15	仕事に対する基本姿勢①	講義・演習
16	仕事に対する基本姿勢②	講義・演習
17	仕事に対する基本姿勢③	講義・演習
18	企業訪問の意味について①	講義・演習
19	企業訪問の意味について②	講義・演習

20	エントリーシートの書き方①	講義・演習
21	エントリーシートの書き方②	講義・演習
22	履歴書の書き方①	講義・演習
23	履歴書の書き方②	講義・演習
24	企業訪問は一次面接①	講義・演習
25	企業訪問は一次面接②	講義・演習
26	企業訪問の準備①	講義・演習
27	企業訪問の準備②	講義・演習
28	アポイントメントの取り方①	講義・演習
29	アポイントメントの取り方②	講義・演習
30	企業訪問のお礼状の書き方①	講義・演習
31	企業訪問のお礼状の書き方②	講義・演習
32	ビジネスの常識について①	講義・演習
33	ビジネスの常識について②	講義・演習
34	業種・業界知識の基本①	講義・演習
35	業種・業界知識の基本②	講義・演習
36	会社の仕組みと組織について①	講義・演習
37	会社の仕組みと組織について②	講義・演習
38	就職試験マナーについて①	講義・演習
39	就職試験マナーについて②	講義・演習
40	志望動機の作り方①	講義・演習
41	志望動機の作り方②	講義・演習
42	志望動機の作り方③	講義・演習
43	志望動機の作り方④	講義・演習
44	作文試験の対策①	講義・演習
45	作文試験の対策②	講義・演習
46	作文試験の対策③	講義・演習
47	作文試験の対策④	講義・演習
48	面接試験の形式について	講義・演習

49	面接試験の受け答えについて①	講義・演習
50	面接試験の受け答えについて②	講義・演習
51	スピーチの訓練①	講義・演習
52	スピーチの訓練②	講義・演習
53	筆記試験の対策について①	講義・演習
54	筆記試験の対策について②	講義・演習
55	筆記試験の対策について③	講義・演習
56	適性検査①	講義・演習
57	適性検査②	講義・演習
58	一般常識①	講義・演習
59	一般常識②	講義・演習
60	一般常識③	講義・演習
61	面接対策①	講義・演習
62	面接対策②	講義・演習
63	面接対策③	講義・演習
64	面接対策④	講義・演習
65	面接対策⑤	講義・演習
66	グループワークの対策①	講義・演習
67	グループワークの対策②	講義・演習
68	グループワークの対策③	講義・演習
69	グループワークの対策④	講義・演習
70	求職票の清書①	講義・演習
71	求職票の清書②	講義・演習
72	履歴書の清書①	講義・演習
73	履歴書の清書②	講義・演習
74	内定したときについて①	講義・演習
75	内定したときについて②	講義・演習
76	ビジネス文書の書き方①	講義・演習
77	ビジネス文書の書き方②	講義・演習

78	ビジネス文書の書き方③	講義・演習
79	ビジネス文書の書き方④	講義・演習
80	ビジネス文書の書き方⑤	講義・演習
81	ビジネス文書の書き方⑥	講義・演習
82	ビジネス文書の書き方⑦	講義・演習
83	不合格のときの振り返り①	講義・演習
84	不合格のときの振り返り②	講義・演習
85	不合格のときの振り返り③	講義・演習
86	二年次のまとめ①	講義・演習
87	二年次のまとめ②	講義・演習
88	二年次のまとめ③	講義・演習
89	予備	講義・演習
90	予備	講義・演習
91	予備	講義・演習
92	予備	講義・演習
93	予備	講義・演習
94	予備	講義・演習
95	予備	講義・演習
96	予備	講義・演習
97	予備	講義・演習
98	予備	講義・演習
99	予備	講義・演習
100	総括	講義・演習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
定期試験50%、課題、提出物、レポート４０％ 学習意欲・出席率10% 成績評価基準は、A（80点以上）・B（65点以上）・C（50点以上）・D（49点以下）とする。	自分の意見を他者のさまざまな意見の中にしっかりと位置づけさせ、みんなで一緒に知識を深められるように、お互いの人間性を尊重し、且つ建設的な意見を述べて下さい。レポート・課題を全て提出できるようにしてください。評価に大きく反映します。

実務経験教員の経歴	特定施設にて介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員として12年勤務